

デジタルカメラ

目次

I. 商品知識

1. デジタルカメラとは		2	ページ
2. デジタルカメラの種類		2-4	ページ
3. 交換レンズの種類		5-8	ページ

II. 買い取り

1. 外観・付属品の確認		9-10	ページ
2. 撮影・動作確認		11	ページ

III. 生産

1. データ・個人情報の消去		12	ページ
2. クリーニング		12	ページ
3. プライスカード作成		13	ページ

IV. 用語集		13-15	ページ
---------	-------	-------	-----

V. FAQ		16-17	ページ
--------	-------	-------	-----

I. 商品知識

1. デジタルカメラとは

レンズを通してボディ内部に取り込んだ光を、撮像素子(イメージセンサー)によって電気信号に変換することで、画像をデジタルデータとして記録するカメラ。ビデオカメラ(ムービー)との比較では、静止画を主に扱うことからデジタルスチルカメラとも呼ばれた。

2. デジタルカメラの種類

①コンパクトデジタルカメラ



- ・略して「コンデジ」とも言われる一般的なデジタルカメラ
- ・レンズ交換はできない
- ・かつては高画素数＝高価格という図式が成立したが、現在では画素数と価格はほとんど連動しなくなっている
- ・デジタル一眼レフカメラと比べて持ち運びのしやすさ(携行性)が長所であるが、携帯電話やスマートフォンのカメラ機能が発達したことで市場は縮小

- ・良くも悪くも初心者向きで、誰でも簡単にそれなりの写真が撮れる反面、カメラ任せの部分が多く、凝った写真は撮りづらい
- ・AF(オートフォーカス)の仕組みがコントラストAFであるため、デジタル一眼レフカメラよりも合焦速度が遅く、特に動きの速い被写体には弱い



- ・コンデジの携行性を保ちつつデジタル一眼レフに迫る画質を得るものとして高級コンデジと呼ばれる商品が販売されている
- ・大型の撮像素子と大口径の明るいレンズを搭載し、多彩な撮影プログラムを備えることで撮影者の作画意図に応えられるとして、サブ機として携行するプロカメラマンやハイアマチュア層の支持を得ている

②デジタル一眼レフ



- ・ミラー、プリズム、光学ファインダーを搭載したレンズ交換式デジタルカメラ
- ・レンズを交換することで様々な場面での撮影に対応できる
- ・コンパクトデジタルカメラよりも大型のイメージセンサーを搭載しており、画素数が同じでも画質ではデジタル一眼レフの方が優れている
- ・コンパクトデジタルカメラやミラーレス一眼と違い、合焦（ピント合わせ）は位相差AF（オートフォーカス）によって行われており、このためAFの速度が速い

・デジタル一眼レフの中でも特に大型の撮像素子を搭載したものを通称「フルサイズ機」などと呼ぶことがある。それに対して入門用から中級者向けのものは「APS-C機」と呼ばれることがある



APS-C機
Nikon D3400: 395g(レンズを含めない)



フルサイズ機
Nikon D810: 880g(レンズを含めない)

③ミラーレス一眼



- ・一眼レフカメラからミラーを取り除いた構造の、レンズが交換できるカメラ
- ・ミラーを無くしたことでボディとレンズの小型・軽量化が実現でき、高画質と携行性を両立させたいという需要に応える製品になっている
- ・Canon、Nikon、SONYなど各社から販売されているが、デジタル一眼レフ用のレンズとはレンズマウントが異なっている。
- ・AF方式はコンデジと同じくコントラストAFであるため、合焦速度はデジタル一眼レフに比べて劣る。

デジタル一眼レフは画質において優れるが、ボディやレンズがコンデジやミラーレスと比べて大きく重くなりがちであり、これらのデメリットと画質やAF速度といったメリットを比較して最適な機材を選択する必要がある



△ ポイント

撮影者(性別、年齢など)や使用目的(記念写真、子どもの成長記録など)により、お勧めすべきカメラは変わってきます。お子さんの運動会の写真を撮りたいというお父さんには、位相差AFで動きのある被写体に強いデジタル一眼レフカメラをお勧めするべきですし、旅行先でちょっと記念写真を撮りたいという女性には小さくて軽いコンパクトデジタルカメラやミラーレス一眼をお勧めするべきでしょう。

ハードオフで買ってよかった、ハードオフで相談してよかったと思っただけのように、お客様からお金だけではなく、信頼と感謝もいただけるように、会話を通してお客様のニーズをくみ取り、それぞれのカメラの特徴を踏まえた上で適切な接客をしましょう。

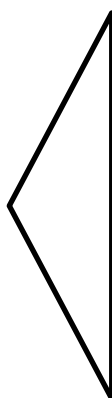
3.交換レンズの種類

デジタル一眼レフカメラ、ミラーレス一眼カメラには交換レンズを取り付けないといけません。どのような写真を撮るのかといった目的に応じて交換レンズを選択する必要があります。

①広角レンズ

写真に収めることのできる範囲が広い(画角が広い)レンズ

厳密な定義は存在しないが、フルサイズ機用のレンズでは焦点距離が概ね50mmより短いものを広角レンズという(APS-C機用のレンズでは焦点距離30mmより短いもの)

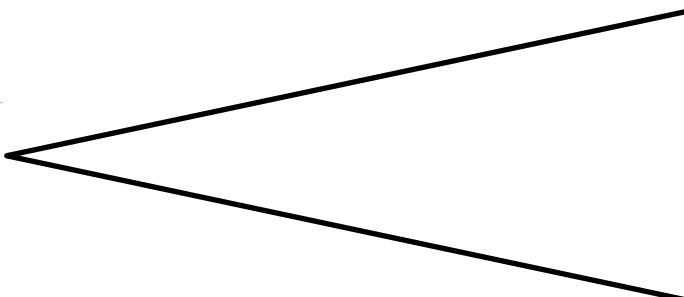


②望遠レンズ

画角が狭く、遠くの被写体を手前に引き寄せて写真に収める能力の高いレンズ

やはり厳密な定義は存在しないが、フルサイズ機用のレンズでは焦点距離が概ね85mmより長いものを望遠寄りのレンズという(APS-C機用のレンズでは焦点距離60mm程度より長いもの)

ただし、一般的に望遠レンズの特性がより発揮されるのはフルサイズ機用で焦点距離が135mmより長いものであり(APS-C機では90mm程度)、焦点距離85mmから135mm程度のものは中望遠レンズと分類されることもある。



③標準レンズ

画角、焦点距離が、広角レンズと望遠レンズの間に収まるもの。

「標準」という言葉の由来は諸説ありはっきりしていません。

A. 単焦点レンズ

ズームの機能をもたないレンズ

ズームができない分だけ利便性ではズームレンズに劣りますが、描写能力が高いことや、浅い被写界深度を利用した「凝った写真」が撮れるなどの理由でカメラ愛好者の間では人気の高いレンズです。



B. ズームレンズ

焦点距離を変化させることで様々な画角での撮影に対応できるレンズ

1本で様々な状況に対応できる反面、サイズや画質の面で単焦点レンズに及ばない点もある



レンズの型番表記から読むその性能

交換レンズは型番にその製品についての多くの情報が盛り込まれています

つまり、型番を正しく読み解くことができればその商品の主要な情報を得ることができ、正しく型番をプライスカードに記載することができればお客様の必要な情報の多くの部分を提供することができます

Canon EF-S 55-250mm F4-5.6 IS STM



EF-S: CanonのEF-Sマウント(APS-Cサイズ用デジタル一眼レフカメラ用)レンズ
(フルサイズ機には装着不可)

55-250mm: 焦点距離が55-250mmの範囲で伸縮するズームレンズ

F4-5.6: 広角時の開放F値は4であるが、望遠時の開放F値は5.6となる

IS: IMAGE STABILIZER (イメージスタビライザー)の略でレンズ内蔵手ぶれ補正

STM: Stepping Motor (ステッピングモーター)の略でレスポンスの速さや静音性に優れる

Canon EF 50mm F1.8 STM



EF: CanonのEFマウント用レンズ(APS-C機にも装着可能だが画角が変化する)

50mm: 焦点距離が50mmで固定の単焦点レンズ

F1.8: 開放F値が1.8 (単焦点であるから「F4-5.6」のような幅はもたない)

各社このラインは比較的安価に単焦点レンズの写りを試せる商品をそろえている

Canon EF 70-200mm F2.8L IS II USM



EF: CanonのEFマウント用レンズAF-S DX NIKKOR 55-200mm f/4-5.6G ED VR II

70-200mm: 焦点距離が70-200mmの範囲で伸縮するズームレンズ
F2.8: 広角から望遠まで開放F値が2.8となる通称「通しレンズ」
L: Luxury (ラグジュアリー) を意味する高級レンズで鏡筒の赤ラインが外観的特徴

USM: Ultrasonic Motor (超音波モーター) の略。高トルク・高レスポンス

Canon EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STM



EF-M: Canonのミラーレス機用のレンズ。一眼レフ用レンズとの互換性はない

Nikon AF-S DX NIKKOR 55-200mm f/4-5.6G ED VR II



AF-S: Nikon Fマウント用のレンズでAF駆動用のモーターをレンズに内蔵している
DX: DXフォーマット (APS-Cサイズ) 用に設計されたレンズ。FX (フルサイズ) 機にも装着は可能だがクロップモードでの動作になる

ED: Extra-low Dispersion (特殊低分散) ガラスを使用したレンズ

VR: Vibration Reductionの略で手ぶれ補正内蔵

Nikon AF-S NIKKOR 50mm f/1.8G



~~DX~~: 「DX」の表記がないものはFXフォーマット (フルサイズ) 機用レンズ
ニコンのFXフォーマットのボディには「FX」の表記があり、DXフォーマットのボディには「DX」の表記がない。ニコンのFXフォーマットのレンズには「FX」の表記がなく、DXフォーマットのレンズには「DX」の表記がある

Nikon 1 NIKKOR 18.5mm f/1.8



1: Nikon 1マウント (CXフォーマット=ミラーレス機) 用レンズでFマウントとの互換性はない

E 18-200mm F3.5-6.3 OSS LE SEL18200LE



E:APS-C機用のレンズ
~~FE~~:フルサイズ機用のレンズの場合は「FE」の表記となる
 OSS:手ぶれ補正
 SEL:SonyEマウント用レンズ

50mm F1.4 SAL50F14



~~DT~~:AマウントでAPS-C用のレンズには「DT」の表記がつく。これがないものはフルサイズ用レンズ
 SAL:SonyAマウント用レンズ
 F14:開放絞り値1.4。単焦点レンズの場合は焦点距離を示す「50」と開放絞り値を示す「14」の間に「F」が入る。ズームレンズの場合は開放絞り値は省略(上記、SEL18200LEを参照)

🔍 ポイント

「カメラ用語」を知っておくことでお客様との会話がスムーズになります。

(1)明るいレンズ

口径が大きく、光をより多く通すことのできるレンズ。レンズが明るいことによりメリットは、

1. シャッター速度を速くすることができる
2. 被写界深度を浅くして美しいボケを活かした写真が撮れる

などがある。ただし、大口径で特に焦点距離の長いレンズはそれだけ大きく、重く、高価になる。

(2)通しレンズ

ズームをさせてもF値(明るさ)が変化しないレンズ。焦点距離を長くする(画角を狭くする)と、それだけ取り込める光量が下がってしまうのが通常であるが、通しレンズと通称されているレンズではズームによって光量の低下が起こらないように設計されている。ただし、これも大きく、重く、高価なレンズになりがちである。

🔍 ポイント

デジタル一眼レフカメラ、ミラーレス一眼カメラは撮ろうとする写真によってレンズを選択する必要があります。一般的に、風景写真や記念写真などは広角レンズが使用されることが多いです。

逆に撮りたい主題がはっきりしている写真の場合、望遠レンズを使われることが多いです。

また、様々な場面に幅広く対応できるズームレンズは利便性において優り、単焦点レンズは撮影環境を整えてやる必要がありますが、ズームレンズでは再現ができない写真を撮ることができます。

Ⅱ. 買い取り

デジタルカメラは通常、充電したバッテリーで動作させます。このため、お客様のお持ちこみ時にバッテリーが充電されていないと、まずその充電から始めなければならないため、査定に通常よりも長い時間がかかってしまいます。

買い取りがたてこんでいる時でも、そうした「準備が必要な商品」があることが分かった場合にはその確認をし、査定に時間がかかることをお客様にお伝えする、先に取りかかっている買い取りがあってもその査定を行いつつ充電を初めておくなど、なるべくお客様の待ち時間を減らせるように幅広い視野をもって買い取り業務にあたります。

1. 外観、付属品の確認



屋外に持ち出す製品であるため、キズ、打痕、落下痕などがないかどうかを確認する。その他、樹脂部分の劣化によりベタつき、白色化などがないかどうかを確認。

購入を検討されるお客様が「前所有者がどのように使っていたか」を判断する部分ですので、「次のお客様」の目になって商品を観察しましょう



レンズの先端をぶつけてしまったと思われる例
フィルターがついた状態でこうなってしまうと簡単には外れなくなってしまうし、これだけのへコミがあるものは「ショック品」として扱うべきであると思われます

社外品のバッテリーを使用されている方も多くいらっしゃいます。純正のバッテリーであるか、社外品のバッテリーであるかは販売価格に関わってくるため確認をしましょう。

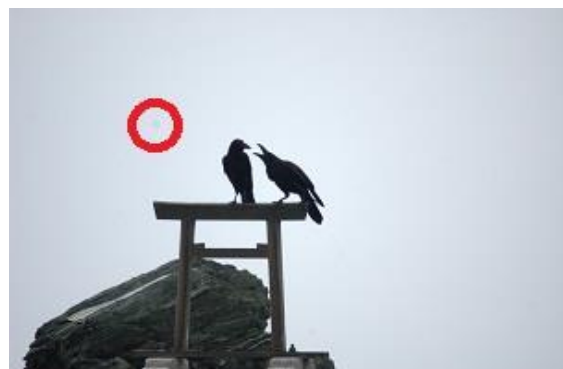




レンズ内部のゴミやホコリの混入も確認しましょう
 蛍光灯に向けてみる、ペンライトで反対側から照らしてみる、などすると
 レンズ内部のコンディションが見えやすくなります

2. 撮影・動作確認

撮影、再生できるかチェック。この際はズームがテレ(広角側)、ワイド(望遠側)ともスムーズに動くか、異音がないか。AFが効くかフラッシュが発光するか、異音が無いかピントがちゃんとあっているか。レンズ内部や撮像素子にゴミや汚れが混入、付着したことによる異物や影の映りこみがないかどうかともチェックしましょう。ズームをテレ側、ワイド側にしてみたり、白いものを写す、黒いものを写す、可能な機種であれば絞りこんで撮影してみたりなど、様々な写し方をしてみてチェックしましょう。



ズームをしても同じ箇所にゴミが映り込むのは撮像素子に汚れが付着しているためです。デジタル一眼レフ、ミラーレス一眼の場合はクリーニングをすることでゴミを取り除くことができますが、コンパクトデジタルカメラの場合は不可能です。



液晶画面に変色があることもあります。撮影画像に問題は
 ありませんが、商品の価格に関わることでありますのでチェックを
 しましょう。
 白いコピー用紙を撮影、再生することで液晶画面の変色が
 確認できます

Ⅲ. 生産

1. データ・個人情報の消去



写真は個人情報と見なされるデータです。カメラ内部に前所有者の写真が残っていた場合、お客様の信頼を失ってしまいます。メモリーカードは取り外してPCを用いてハードディスクなどに準じる扱いでデータを消去しましょう。また、特にコンパクトデジタルカメラなどではカメラ本体に写真を記録できる「内蔵メモリー」を備えている機種が多くあります。カードが取り付けられていると内蔵メモリーにアクセスできないことがあるため、カードを抜いてから「内蔵メモリ初期化」などの機能を用いて確実にデータ消去をしましょう。

カメラは外に持ち出して使うものであるため、延長保証に加入して購入される方も多く、他の商品と比べて、そうした保証書や延長保証加入書などが丁寧に保存されていることが比較的多くあります。個人情報が次のお客様に渡ってしまうようなことがないように、付属品を今一度チェックしましょう。

2. クリーニング



基本クリーニングに準拠しますが、シャッター膜やミラー、レンズに向けてエアーを直射すると商品を破損させてしまう恐れがあります。カメラ用のブロアを使うなどして商品を保護しつつクリーニングしましょう

同様にゴミが付着した状態でレンズ表面をこするとゴミを押しつけてしまうことによってキズがつくことがあります。上記ブロアで大きなゴミを取り除いた上で、不織布と無水エタノールで拭き上げることによってクリーニングが可能です



2. プライスカードの作成



画素数、撮像素子のサイズ、光学ズーム、使用するメディア、手ぶれ補正の有無などはお客様に必要とされることが多い情報です。プライスカードの記入欄には限りがありますので、そのカメラごとの特色を表すスペックを記載しましょう。

また、高級コンデジなどであれば光学ズームよりも35mm換算の焦点距離を記載し、開放F値も記載した方が客層に合ったプライスカードになるでしょう。



レンズは型番にほとんどの情報がここに集約されています。正しく型番を記載しましょう。また、純正ではないレンズメーカーのレンズは適合するマウントを記載します。



一部難がある商品は必ず記載します

ポイント

プライスカードに記載する情報はほぼ定型的ですが、その中でもそのカメラの特色を表すものを記載するようにしましょう。

例えば、高倍率のコンデジであれば光学20倍ズームなど、防水・防塵性能をもつデジカメはそれを記載するようにすれば、お客様の目に止まりやすくなるでしょう。

IV. 用語集

・撮像素子

光を電気信号に替える部品。かつてはCCDが主に使用されていたが、現在はCMOSが主流。CMOSは暗い場所での撮影でノイズが増えるなどの欠点があるが、裏面照射型CMOSの搭載やCMOSの大型化といった対策が取られることがある。

カメラのスペック表では「1/2.3型CMOS」や「APS-CサイズCMOS」などのように表記される



中判(44×33mm)
PENTAX 645D



フルサイズ (36×24mm)
Nikon D600 (約 2426 万画素)
Canon EOS-1D



APS-C (23.4×16.7mm 各社によりバラつきあり)
Nikon D7100



FourThirds (4/3 型=17.3×13.0mm)
フォーサーズ
OLYMPUS OM-D E-M1 (約 1628 万画素)



1.0 型 (13.2×8.8mm)
SONY DSC-RX100



2/3 型 (8.8×6.6mm)
FUJIFILM X20



1/1.7 型 (7.6×5.7mm)
Canon PowerShotS200



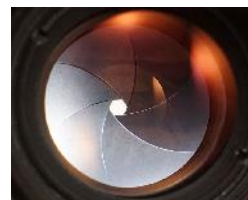
1/3.0 型 (4.8×3.6mm)
Apple iPhone5S (約 800 万画素)

・シャッタースピード

シャッターが開いている時間の長さ。1秒よりも短い場合は「1/1000」などと表示され、1秒よりも長い場合は「4”」などのように表示される。同じ滝の写真を撮るにしても、シャッタースピードを速くすると水滴の一粒一粒までが見える躍動感のある写真で滝の荒々しさを表現でき、遅くすると水の流れを絹糸のように写すことができ、これによって滝の柔らかさを表現するなどが可能となる。

・絞り

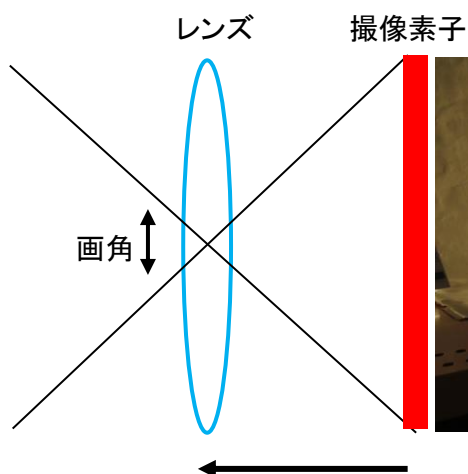
レンズを通る光の量を調整する仕組み。絞り羽根という部品がレンズの中にあり、これを動かすことで実現している。絞り値が大きくなるほどレンズを通る光の量が少なくなり、シャッタースピード、絞り、感度によって、カメラは適切な光量を得られるように調整している。また、絞りを開放に近づける(絞り値を小さくする)ことで被写界深度が浅くなるという効果が得られる。



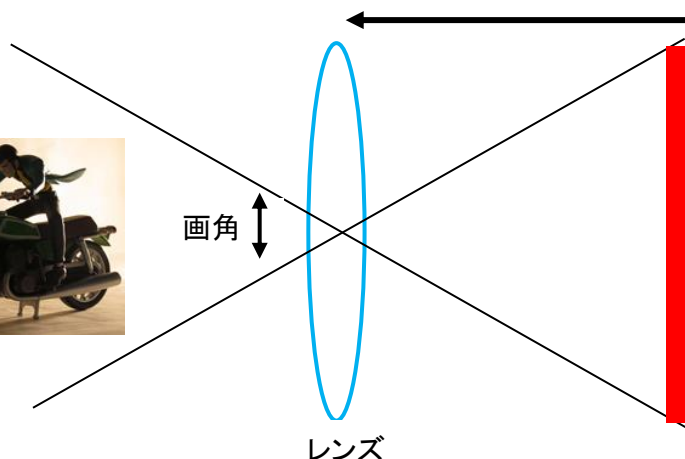
・焦点距離

撮像素子(あるいはフィルム面)からレンズの中心点までの距離。ズームレンズはこの焦点距離を操作することでズームを実現している。

イメージ図です

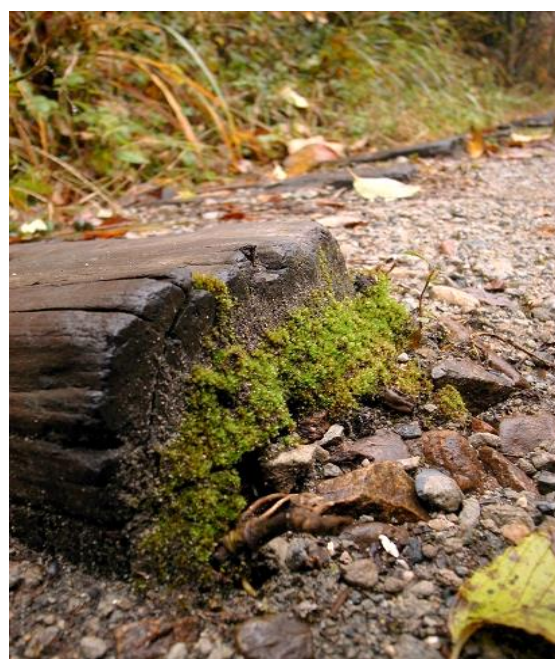


焦点距離



・被写界深度

ピントを合わせたポイントからどのくらいの距離までがピントが合っているように見えるかという範囲。記念写真のように写真全体のピントが合っているように見える写真は「被写界深度が深い」状態であり、このような状態を「パンフォーカス」という。逆に花のしべの部分にだけピントがあっていて背景や手前がボケているような写真は「被写界深度が浅い」状態であり、このようにすることでピントが合っている部分を浮き上がらせて主題を強調する効果がある。女性のポートレートなどにもよく使われる手法。



・位相差AFとコントラストAF

位相差AF:位相差AFセンサーによりピントのズレを測定してそれに応じてレンズを動かしてピントを合わせる。合焦が速い。

コントラストAF:ピントが合っている状態＝コントラスト(明暗比)が大きいという性質を利用して、レンズを動かしてコントラストの高い部分を探す方式。合焦の速度は位相差AFに劣ることが多いが、専用のセンサーを必要としないためボディの小型化がしやすく、またAFの精度はコントラストAFの方が高い。



ピントが合っていない状態
明るい部分と暗い部分が混ざり合ってしまう
ため、明暗比が低い



ピントが合っている状態
明るい部分と暗い部分がはっきりと分かれて
いるため、明るい部分はより明るく、暗い
部分はより暗く写る

・光学ズーム

焦点距離を操作することで画角を変化させてズームを実現する仕組み。写真の一部を切り取って拡大するデジタルズームと違い、画質の劣化はあまりない。

双眼鏡などの倍率とは異なり、デジタルカメラでの光学ズームの倍率は(最長焦点距離÷最短焦点距離)で求められる数値であって、例えば光学5倍ズームだからといって100メートルの距離にあるものを20メートルに引き寄せて撮影する機能を有しているわけではない。

望遠の性能はあくまで焦点距離によって決定づけられる。例えば、FUJIFILM FinePix XP90(焦点距離:28mm～140mm)も、OLYMPUS STYLUS TG-870 Tough(焦点距離:21mm～105mm)も、ともに光学5倍ズームとされるが焦点距離が違うため望遠の性能は異なる

・ISO感度

撮像素子がどの程度の弱い光でも反応できるかの値。感度を高めると暗い環境でもシャッター速度を速めて手ぶれを防止しやすくなるがノイズが発生しやすくなる。

・SDカード規格

SDカードは2GBまでのものしかなく、SDHCカードは32GBまでのものしかない。SDXCカードが使用できる機器では2GBのSDカードも使用できるが、SDカードしか使用できない機器ではSDXCカードは使えない可能性が高い。

なお、Classとは転送速度のことで、この数字が高いほどデータの書き込み、読みこみが高速でできる。

V. FAQ

Q.このデジタル一眼カメラにこのレンズはあいますか？

A-①レンズメーカー製のフィルムカメラ用のレンズの場合

特に純正ではないレンズメーカーのレンズの場合は実際に試してみるのが無難であると思われます。装着できてもファームウェアが対応していないなどの理由でオートフォーカスが作動しないことなどもあり、装着できれば必ず使えるわけではありませんのでご注意ください。

A-②一定のニコンのレンズとボディの組み合わせでAFが作動しないことがあります。AF-S、AF-I以外のAFニッコールレンズと、AF駆動用のモーターを内蔵していないボディの組み合わせではAFが作動しません。フィルムカメラ時代のオールドレンズとデジタル一眼レフのエントリー機との組み合わせという言い方でおおまかな説明となるかと思われます。詳細についてはメーカーHP ("<http://www.nikon-image.com/products/lens/combination/#section03>")を参照のこと

Q. マウントの違うレンズでもマウントアダプターを使えば使えるようになると聞きましたが？

A. 「装着できる」と「使える」とは別問題です。装着できたとしても万全な動作が保証できるものではなく、最悪の場合では製品を破損する恐れもあります。例を示すなら、M42レンズをSONYのミラーレスで運用するなどが可能ですが、マウントアダプターはボディとレンズの特性を熟知した人が自己責任で使うアイテムであって万人にお勧めできるものではありません。

Q. レンズの内部にカビが発生しているようです。どんな影響がありますか？

A. 少々のカビが発生しているくらいでは写真への影響はほとんどありません。しかし、カビはゴミと違って生き物であるため増える心配があります。カビの範囲が広がってくると写真に影響が出てくる恐れもあるでしょう。

メーカーに送って清掃してもらうこともできますが、この場合「清掃はしましたが再度発生する恐れがあります」という注意書きが付されることになり、あるいは、部品交換が必要となった場合、この部品保有期間が過ぎているために処置を断られることもあります。

Q. レンズ内部に小さなゴミがはいってます。写真に写りますか？

A. 通常の撮影方法でゴミがそのまま写真に映り込むことはあまりありません。後玉(ボディに近い側)に大きめのゴミが入っていたならいくらかの影響がでる可能性はあります。

また、ズームレンズや高倍率コンパクトデジカメはその構造上内部にゴミやチリが入ってしまうことが避けられません。取り除くにはメーカーに送るしかありませんが、実際に写真には写らない場合もあります。中古の場合はプライスに明記し確認していただきましょう。

Q. 電源が入らないデジカメをジャンクで販売してもいいですか？

A. 内蔵メモリが存在しないデジカメであれば大丈夫ですが、内蔵メモリ搭載のデジタルカメラは消去が確認できない以上ジャンクでも販売不可能です。メーカーサイトなどで確認し「内蔵メモリ:〇〇MB」と記載されていれば廃棄してください。

Q. AF速度が速いといわれてデジタル一眼レフを買ったのにAF速度が遅いんですが？

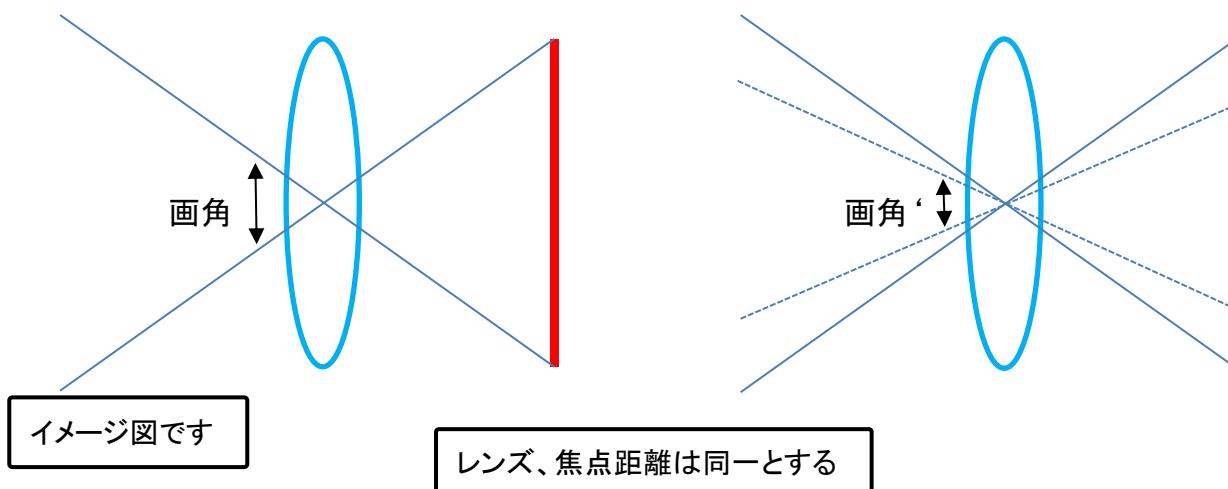
A. 近年のデジタル一眼レフカメラには「ライブビュー」機能が搭載されていることが多くあります。これは光学ファインダーではなく、液晶モニターを見て写真を撮影できる便利な機能なのですが、その仕組み上、ライブビュー使用時は多くのカメラがコントラストAFで動作してしまいます。

Q. ボディやレンズの樹脂部分がベタベタしています。どうすればキレイにクリーニングができますか？

A. 加水分解と呼ばれる化学反応の結果であり、元通りにすることは不可能です。メーカーで修理扱いとして貼り替えを依頼するか、ベタついている部分をアルコールとウェスなどで「こそぎ落とす」などの対応が考えられます。ただし、こそぎ落とした場合は下地が露出してしまいますので質感・高級感などが著しく損なわれる恐れがあります。

Q. APS-C機の場合は焦点距離に規定の掛け率をかけた画角になると聞きました。よく分かりません。

A. 順をおって解説します。まず、画角は撮像素子の大きさと焦点距離の両方によって変わってくるものです。以下に図示します。

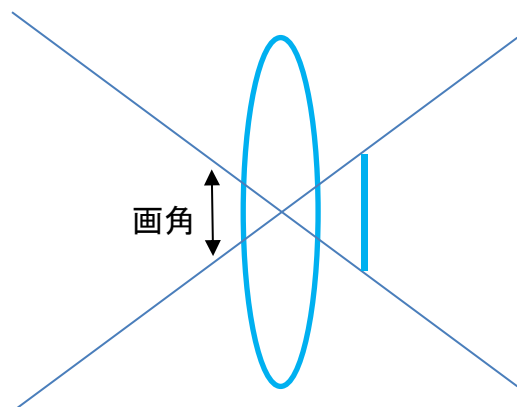


図のように、レンズと焦点距離が同じでも、受光素子が変わると写真として記録できる範囲が狭くなってしまいうため、結果として画角が変化します。この変化は焦点距離を伸ばした場合と同様の変化であり、つまり「同じレンズでもフルサイズ機に装着した場合と比べて、APS-C機に装着した場合は望遠よりのレンズとして機能する」ということになります。例を上げるとニコンのAF70-200mmのレンズをAPS-C機に装着するとフルサイズ比で1.5倍である105-300mm相当の画角が得られるレンズとなります。

また、コンパクトデジタルカメラのスペック表で焦点距離の部分に

焦点距離: 8.8-25.7mm (35mm換算値: 24-70mm)

という記載があれば、撮像素子からレンズの中心点までの距離は8.8-25.7mmの範囲で変化し、この時35mmフィルムカメラ(あるいはフルサイズ機)で撮影した場合の24-70mmに相当する画角が得られるという意味になります。



撮像素子が小さくなっただけでは極端な望遠よりの写真しか撮れないカメラになってしまいますが、焦点距離を縮めて設計をすることで広角にも対応できるカメラになります

Q. 結局、スマートフォンのカメラ機能と比べてデジタルカメラにはどんな利点があるんですか？

A. まず撮像素子の大きさがあります。大きな撮像素子を搭載した2000万画素のカメラと比較した場合、小さな撮像素子を搭載した2000万画素のスマートフォンでは、当然一つの画素あたりで受けられる光の量が変わってくるため、暗所での撮影に不利となり、また小さな信号を増幅する過程でノイズが多くなったり(S/N比)、色の再現性が劣ってしまふことがあります。また、ダイナミックレンジや階調表現でも不利になります。

また、スマートフォンでは多くの機種で光学ズームは搭載されていないため、拡大はデジタルズームに頼ることになり、ズームによる画像の劣化が起こります。

しかし、これらの点は例えばブログに載せる小さな写真などではほとんど目立たなくなり、拡大表示させる、印刷する場合に差として表れてきます。また、小型で常に持ち歩いているという点はスマートフォンの大きなメリットであり、状況や目的に応じて使い分けると良いでしょう。

フィルムカメラ

目次

I. 商品知識

1. フィルムカメラとは		2	ページ
2. フィルムカメラの種類		2-3	ページ

II. 買い取り

1. 外観の確認		4	ページ
2. 動作の確認		4-8	ページ

III. 生産

1. クリーニング		9	ページ
2. プライスカード作成		9	ページ

I. 商品知識

1. フィルムカメラとは

フィルムという感光材料に適切な光を照射してやるための機材
デジタルカメラにほぼ取って代わられてしまっているが、一部に根強いファンがいる他、その独特の仕上がりを好む若い世代の流入が見られる

2. フィルムカメラの種類

① コンパクトカメラ



- ・レンズ交換のできないフィルムカメラ
- ・画像は FUJIFILM NATURA S

② 一眼レフカメラ



- ・レンズ交換ができるフィルムカメラ
- ・ボディ内部のミラーとプリズムを利用して撮影される画像がファインダーに映し出される

③ レンジファインダーカメラ



- ・レンズ交換ができるフィルムカメラ
- ・距離計(レンジファインダー)が内蔵されており、これによってピント合わせを行う

④二眼レフカメラ



- ・撮影用とファインダー用の二つのレンズ(二眼)を持つカメラ

④インスタントカメラ



- ・撮影直後に自動的に現像を行うカメラ
- ・画像のinstax mini(チェキ)は人気が再燃している

△ポイント

CONTAXやLeicaでなくとも、いまだに根強い需要があるフィルムカメラが存在します
新品市場からなくなってしまった商品を再び流通させるのも我々の使命です。

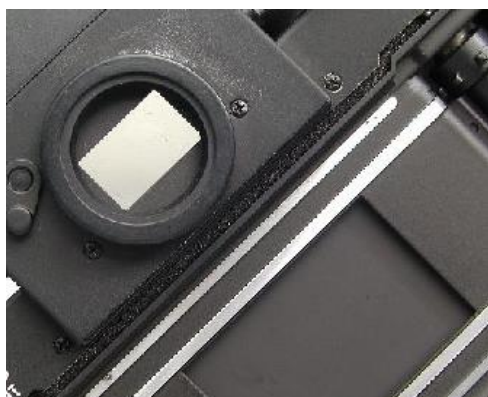
Ⅱ. 買い取り

1. 外観の確認

外に持ち出して使うことが多い製品ですので、落とした、ぶつけた、などの傷がつきものです。また、多くが古い機種であるため経年劣化も多く見られます。



シャッター幕が破損してしまっており、使用には修理が必要な状態です



モルトプレーンというウレタン部材が使われています。外光によってフィルムが感光しないための遮光材ですが加水分解によって崩れているものが多いです。個人でも交換が可能ですので現状渡しで販売する場合は、モルトが崩れている旨を記載しましょう。また、ファインダー内のカビや腐食もよく見られます。ファインダー内の汚れは写真への映りこみはありませんがプライスカードには明記しましょう

2. 動作の確認

①オートフォーカス機



AFに対応のレンズを装着し、電池を入れて撮影確認を行います。デジタル一眼レフと同様の手順ですが、撮影画像の確認はできませんのでフィルムを入れないままで空シャッターを切って確認します

単3電池で動く機種もありますが、右のようなカメラ用の電池を使用する機種も多くあります



②マニュアルフォーカス機



I 電子式シャッターの場合

シャッターを電氣的に制御して動作させるため、オートフォーカス機構がなくても電池が必要



II 機械式シャッターの場合

スプリングなどの働きによりシャッター動作を行うため、シャッターを切る動作に電源は不要
ただし、露出計を内蔵している機種ではそのために電池が必要となる

一例として

Nikon FEという機種の動作確認例を示します

※査定の前に

中にフィルムが入っていないことを確認します

その確認ができる窓がある機種であるならそこで確認、なければお客様にお尋ねし、お客様も分からないということであれば巻き上げレバー（後述）の抵抗で推測することもできます

古いものであり、フィルムが入っていた場合は適切に処分してほしいというご要望であれば、フィルム



電子式シャッターを備えたマニュアルフォーカス機です
絞り優先AE（自動露出:Automatic Exposure）を備えた機種で、
レンズの絞り値をユーザーが決定するとカメラが自動的に



小さく型番とシリアルナンバーの表記があります



まずは外観の確認です

小さなアタリなどがありますが、年式を考慮すれば比較的状态は良好です



裏蓋を開けてフィルム室の状態を見てみましょう
この機種の場合は巻き戻しノブを引き上げると裏蓋を開けることができます



しかし、単に引き上げただけでは動きません



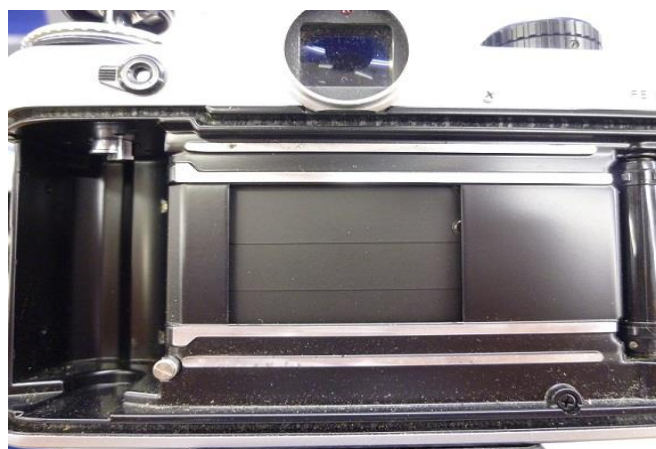
下のバーをスライドさせるとロックが解除されるので



ノブを引き上げます



蓋が開きました



フィルム室の中も比較的状态は良好ですが、



続いて動作の確認です
電子式シャッターの機種なので電池が必要です
底面の蓋を硬貨などで開けて電池ケースを取り出します
この機種の場合、LR44 (SR44) を二つ使用します



巻き上げレバーがシャッターのロックを兼ねていることがあります。この場合、一段階手前に引き出してやるとシャッターのロックが解除され、いっぱいまで回すことでシャッターがチャージされます



シャッターボタンを最後まで押し込むとシャッターがきれます



シャッタースピードを変更するとシャッターの開閉の速度が変わります。低速シャッターの時は開く音と閉じる音の両方が聞こえるでしょうが、高速シャッターの場合は重なって聞こえるでしょう



レンズの状態も確認してみましょう
普通に見ると比較的良好に見えますが



ペンライトの明かりを通してみると白濁が確認できます
少々ゴミやホコリでは映り込みの心配はありませんが、これだけ曇っているとやや影響が出てくるのが心配されます

△ポイント

フィルムカメラは長い歴史のある商品であるために様々な機種が存在します
動かし方も千差万別であり、ここでそのすべてを紹介することはできませんが、古い機種でもメーカーHPで説明書を公開してくれていたり、インターネット上で動かし方が紹介されていたりします

Ⅲ. 生産

1. クリーニング

デジタルカメラの生産に準拠

2. プライスカード作成



その機種の特色である機能を記載します
ファインダー内の汚れや露出計の癖など
ご購入前に見ていただく必要がある難点があ
れば記載してお客様にご覧いただきます



レンズのプライスカードには内外の状態について記載します
カメラメーカー純正ではない、レンズメーカー (TAMRON、
SIGMAなど) のレンズはレンズマウントも記載します

ビデオカメラ

目次

I. 商品知識

1. ビデオカメラ(ムービー、カムコーダ)とは		2	ページ
2. ビデオカメラ種類と特徴		2-4	ページ

II. 買い取り

1. 動作チェック テープ式ビデオカメラ		5	ページ
2. 動作チェック HDD・メモリ搭載ビデオカメラ		6	ページ

III. 生産

動画静止画の消去、プライスカードの作成		7	ページ
---------------------	-------	---	-----

IV. 用語集		8	ページ
---------	-------	---	-----

V. FAQ		9-10	ページ
--------	-------	------	-----

I. 商品知識

1.ビデオカメラ(ムービー、カムコーダ)とは

家庭用の映像記録装置として1970年代に普及したのが、8mm幅のアナログフィルムを使用したいわゆる「8mmフィルム」カメラと映写機です。その後1980年代にVHSや β (ベータ)などの家庭用のビデオデッキが普及すると、それらの規格のビデオカメラも登場します。しかしテープサイズの大きさからカメラと録画機を別々の筐体に収めたセパレートタイプであったり、一体型でも肩に担ぐようなサイズになるため一部のマニア向けの製品でした。その後記録テープを小型化した規格(8mmビデオ、VHS-C)が発表されると、ビデオカメラは片手に収まるサイズになり爆発的に家庭に普及します。1990年代にはデジタル記録方式を採用したminiDV規格が登場、高画質化が加速し、2000年代後半には旧来のビデオ方式である標準画質から新世代のビデオ方式であるHD(ハイビジョン)への移行が進みます。記録媒体もDVDやブルーレイディスクなどの光学ディスクを採用した製品が登場、2006年にはH.264方式で記録するAVCHD規格が策定されます。HDV規格のMPEG-2より少ないデータ容量でHD映像を記録ができ、同時にHDDやメモリーカードに記録する事が可能となり、記録規格や記録媒体は多様化します。本体の小型化によりGoPro(ウェアラブルデバイス)など、一部の目的に特化した製品や、3D動画や4K解像度撮影ができる家庭用ビデオカメラ等も登場し、その一方で、デジタルカメラ(静止画撮影目的のスチールカメラ)やスマートフォン等の携帯端末でも急速な画質の向上によりHD動画撮影が可能となりビデオカメラとほぼ遜色なく使えるようになってきている為、従来の動画撮影専用のビデオカメラの出荷数は急激に減少しています。

2.ビデオカメラ種類と分類

2-1.用途、目的による分類

【ハンディカメラ】



1980年代に確立されたビデオカメラの一般的なスタイルで、手に持ったり三脚を使って撮影するタイプです。高性能・高機能で近年は4K映像を記録できる製品も発売されています。多くは横型ですが、縦に持つシューティングスタイルを採用する製品もあります。

長所

高性能なズーム機能などレンズ性能が優れている。
大きな液晶画面で映像を確認できる。

短所

耐衝撃性能、防水性能が低い。
価格が比較的高い。
サイズが大きい。

【アクションカメラ】



耐久性に優れたコンパクトカメラで、アウトドアスポーツの映像を撮影するのに向いています。体や機材に固定して撮影するウェアラブル対応で、臨場感のある映像が撮影できます。また専用アタッチメントを使用することで自転車やサーフィン、スノーボードなどに取り付け撮影することもできます。

長所

120度から180度などの超広角撮影に対応。
防水、防塵、耐衝撃に強い。
コンパクトサイズ。

短所

小型化の為バッテリー容量が少ない。
※約1時間～2時間程度

2-2.記録媒体による分類

【メモリービデオカメラ】



メインの記録媒体にフラッシュメモリーを採用したビデオカメラ。現在のメモリ容量は32GB～64GBが一般的ですが、96GBモデルなど内蔵メモリの大容量化が進み、HDDよりも起動時間が短いことから、近年主流のタイプとなっている。外部メモリとしてSDメディアを採用している製品が多い。

【HDDビデオカメラ】



大容量のHDD（ハードディスクドライブ）を搭載し長時間の録画やハイビジョンでの録画が可能。近年は起動時間が早く、大容量化されたメモリタイプに取って代わられて製品化される事は少ない。

【メモリーカードビデオカメラ】



着脱可能なメモリーカードを使用するビデオカメラ。コンパクトに設計出来ることが特徴です。アクションカムなどもこのタイプになります。SDやMSなどカードの規格は多様であったが現在は大容量のSDXCカードに対応した機器が主流です。



【ブルーレイビデオカメラ】



8cmのブルーメディアディスクを使用します。1層メディアの記録容量は7.5GB。フルHD動画をMPEG-4 AVCフォーマット(Main Profile/約15Mbps)で約60分録可能。



【DVDビデオカメラ】



8cmのDVD±R/RW(DL)、RAM録画メディアを使用しています。DVDは片面30分の録画可能、DL(ダブルレイヤー、二層式の事)片面が45分と55分の録画が可能なものがあります。



【miniDVカメラ】



デジタルで映像を記録出来るはじめての規格【DV規格】をビデオカメラ用にコンパクトにした規格【miniDV】規格を採用した磁気テープの規格。テープ幅は6mm。記録時間はDV形式のビデオを標準で60分長時間モードで90分記録可能。



【8mmビデオカメラ】



テープ幅が8mm。上位互換のステレオ音声に対応した高画質フォーマットとしてHi8規格や、テープ速度を2倍にしてデジタル記録 (DV互換) が出来るDigital8規格があります。



【VHS-Cビデオカメラ】



VHSと同じ幅12.7mm (1/2インチ) のテープを採用し、アダプタを装着することでフルサイズのVHSカセットとして使用できた。8mmビデオ規格とのシェア争いに敗れた。



△ ポイント

- ・子供の成長記録などのホームビデオを再生するための機器をお探しのお客様は多く、8mmビデオなどの旧型のテープ規格の完動品はもちろん、再生だけ可能なものでも需要は高い。
- ・miniDVや8mmビデオなどそれぞれの時代で普及したビデオカメラであったが、それらに対応する据え置き型のデッキは、既にVHSビデオデッキが普及していた為にほとんど普及せず、再生時にはビデオカメラを直接テレビに接続して再生する家庭がほとんどであった。そのためそれらの規格の据え置き型デッキは当時から現在までレア度は高く、マニア層の需要も下がらないためハードオフでは人気アイテムです。

Ⅱ. 買い取り

外観の確認

屋外に持ち出して使うことが多い商品であるため、落とした・ぶつけたということによるキズや破損がありがちです。また、水濡れによる錆びつきなども確認しましょう。

内部データの確認

・商品をお預かりする際に、大事なデータのバックアップが行われているかを確認します。

1. テープ式ビデオカメラ

付属品の確認

説明書や箱を見ながら付属品を確認します。無い場合はホームページで確認します。



△ ポイント

旧式のムービーは再生やダビング目的で購入される方が多い為、外部出力用のケーブルは必須です。特に専用のケーブルを必要とする場合は入手が困難な為、ここで確実にチェックしましょう。



撮影・再生確認

実際に撮影と再生の確認をしてみます。

ほとんどのビデオカメラは、左図のようなモード切替ボタンで撮影／再生の切り替えを行い、赤い丸が付いてるボタンを押すことによって撮影／停止を行います。

ズームは効くか、動作は滑らかか、フォーカスがあうか、色合いはおかしくないかなどを確認します。



お客様によっては撮影モードのカスタマイズをされている場合があります。動作確認のために撮影設定のリセットを行う場合はあらかじめお客様のご了承をいただきます。



メディアの取り出し

古い機種などでは「テープが詰まって取り出せなくなる」といった不具合もよく見られます。テープの挿入、取り出しを複数回試してみましょう。

△ ポイント

テープ方式のビデオカメラは、接触式であるため「テープを巻き込んでしまっただめにしてしまう」といったトラブルが起こりがちです。テープを入れたまま持ち込まれるケースも多いので慎重にチェックしましょう。また、購入されるお客様の多くも大切なテープを再生させるために購入されます。ここでのテープローディング、再生録画、取り出しといった動作チェックは入念に行いましょう。

Ⅱ. 買い取り

2.HDD・メモリ搭載ビデオカメラ



動作の確認

外観の確認、内蔵データの確認、付属品の有無は共通です。
よく確認しましょう。



電源ボタンを押します。
メーカーにもよりますが、ほとんどのモデルが図のような「電源マーク」
で電源ボタンを表しています。



撮影確認

動画モードに切り替えます。
ムービーマークに合わせます。このようなマークです→
カメラのマークは静止画撮影モードです。



スタート/ストップボタンを押し、撮影の動作確認をします。
一度押して撮影、もう一度押すと撮影停止、録画されます。



ポイント

ビデオカメラは比較的ライトユーザー向けに作られており、撮影や再生などの操作方法はテープ式の時代から最新機種までほとんどのモデルで変わりありません。

「誤ってお客様のデータを消してしまった」「撮影設定を変えてしまった」「動作確認時に録画した映像を消してない」などといったことがないように、日頃から動作チェック、使用方法には慣れておきましょう。

Ⅲ. 生産

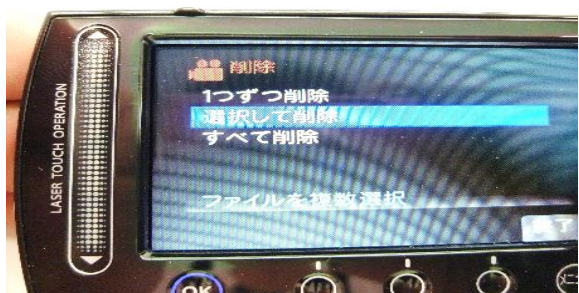
1. 動画、静止画の消去



動画、静止画データを消去します。

機種によってはオールデータ消去できる機種があります。

できない機種の場合は、一つずつ動画を選び全て消去して下さい。
撮影設定も同じく、初期設定にしてください。



2. クリーニング

※カメラクリーニングに準拠

3. プライスカード作成



内蔵メモリ(HDD)容量、画素数、防水、防塵、耐衝撃、光学ズーム、使用するメディア、手ぶれ補正の有無などはお客様に必要とされることが多い情報です。
プライスカードの記入欄には限りがありますので、そのビデオカメラごとの特色を表すスペックを記載しましょう。



△ポイント

ビデオカメラは、カメラ扱いでスチルカメラと同じコーナーに展示する。もしくは、TVやHDDレコーダーと接続して使う機会が多い商品なのでビジュアル機器に近い場所に展示する。比較、購入検討、販売に繋がります。

IV. 用語集

・アナログビデオカメラ

「アナログ信号」をそのままの状態映像や音を記録していました。8mmビデオカメラなど

・デジタルビデオカメラ

ノイズなどを無視して、記録した映像や音の信号だけをほぼ正確に記録します。

・HD ハイデフィニション(high definition)

高解像度(高精細・高画質)の事。1080i、720pが相当するアスペクト比が 16:9です。

・アスペクト比

画面の幅と高さの数値比率

・フルHD

1920×1080ピクセルの画面解像度のこと

・ピクセル

デジタル画像やディスプレイ装置などを構成する単位

・オートフォーカス

焦点(ピント)合わせを自動化した物

・広角(レンズ)

標準レンズは人間の目で見ているのとほぼ同じ範囲が撮影できるレンズのことで、これより焦点距離が短いレンズは目で見ているよりも広い範囲、つまり 広角を写せるために広角レンズと呼ばれている。被写体までの距離が取れない状況でも広い範囲を撮影で出来るため風景などを撮影する場合に使われる

・光学ズーム

光学式ズームは「焦点距離」を変化させる事で画角(視野角)を調節する。「光学〇〇倍」という表現は、そのカメラの最広角の焦点距離に対して 何倍の焦点距離までズームできるかと言う事を表している。

・デジタルズーム

光学式ズームとは違い、画像の中心(一部分)を切り取って拡大する。

・ドット抜け

液晶モニターの薄膜トランジスタ(TFT)におきる不良。落ち、欠け、落ちとも言われ、製造途中において発生する。液晶のドット(点)が点灯しない、もしくはしたままになることを言う。メーカーの保証対象外である。

・レンズ

mm、F値で性能を表示。“mm”は上記のレンズ広角幅のこと。F値とはレンズの明るさを示す。数字が小さくなるほど光を取り込める明るいレンズとなる。

・CCD・CMOS

固体撮像素子。半導体素子の製造技術を用いて集積回路化された物

手振れ補正機能 撮影時に手ぶれを起こすとどうしても映像もブレてしまうが、それを自動的に補正してブレのない映像を撮影できる機能

・3CCD

光の3原色である「赤・緑・青」それぞれを検知する専門のCCDを備えた方式

V. FAQ

Q. デジタルビデオカメラとアナログビデオカメラの違いは？

A. 何と言っても画質の違い。デジタル画質は劣化しにくく、さらにビデオ編集する場合もデジタル映像は修正や加工が簡単な上、コピーを取っても劣化しません

Q. 昔のminiDVのテープを再生するためにビデオカメラを購入されたお客様から「対応していないテープ」と表示されたというお叱りを受けました

A. それぞれの規格には同じサイズのメディアに違う形式でデータを保存する規格が存在します。例えばHi8規格で録画されたテープはVideo8の機器では再生できません。Video8で記録したテープはHi8機器でも再生します。同様に、HDV方式で記録されたテープはminiDVの機器では再生できず、miniDV方式で記録したテープはHDVビデオカメラでも再生ができます。録画したのが昔のことであり、またお客様自身が「Hi8」や「HDV」というものを理解せずに購入・使用されることもあります。プロとしてお客様の環境を可能な限り聞き、適切な商品をお勧めしましょう。

Q. 4Kビデオカメラで撮った映像をDVD、BDにダビングはできますか？

A. 現状では4K映像をそのままDVD、BDに保存ができません。撮った映像を人に渡したいなどといった場合には一度PCに保存しダウンコンバートという作業が必要です。(4KデータをフルHDに変換作業のこと)

Q. 4Kビデオカメラで撮影した映像は4Kテレビじゃなくても綺麗に見られますか？

A. 4Kテレビじゃなくても問題なく綺麗に見られます。ただし100%のクオリティで再現するためには4Kテレビが必要です。

Q. 撮り貯めていたテープをDVDにダビングするには？

- A. ダビングに必要なものは
1. そのテープを再生するビデオカメラ、ビデオデッキ
 2. ビデオケーブル(黄、赤、白)または付属の専用ケーブル
 3. DVDレコーダーまたはBDレコーダー(外部入力端子必須)
- ※ 現在は、右図のようなSDカードに簡単にダビングできる商品もあります。



Q. 動画を撮影しながら静止画(写真)を撮影する事はできますか？

A. ほとんどのモデルで撮影可能です。※デジタルビデオカメラ写真撮影可能な機種に限りデジタルズーム使用中はできないなど、メーカーや機種により撮影制限される場合もありますが、多くの機種で動画撮影をしながら静止画を撮影することができます。ただし、画質はデジカメに劣ります。

Q. ビデオカメラと一緒に用意しておいたほうがよいアクセサリはありますか？

A. 三脚と予備バッテリーがあると便利です。
予備の記録メディアもあると安心です。音にこだわるなら外付けマイク、暗所撮影にはLEDライトなども活躍します。

Q. ビデオカメラとデジタルスチルカメラ動画の違い。ビデオカメラのメリット、デメリットは？

A. ビデオカメラとデジタルスチルカメラ、それぞれで動画を撮影したことによる違いを下にまとめます。

ビデオカメラ

- ・背景、被写体全体にピントが合う
- ・手振れに強い
- ・誰でも手軽に動画撮影が可能
- ・長時間撮影が可能
- ・構造上、暗い所の撮影が苦手
- ・撮影に適した持ちやすく軽いデザイン

デジタルスチルカメラ

- ・被写体のみピントが合い、背景がボケる
- ・手振れしやすく、フォーカスが合わせにくい
- ・露出の考慮など写真撮影に関する知識が必要
- ・長時間撮影が苦手
- ・暗所での撮影や色再現性に優れる。
- ・長時間の手持ち撮影には向いていない

△ ポイント

デジタルスチルカメラの動画性能の向上に加えて、最近では手軽にSNSで共有するためにスマートフォンで動画撮影をする機会が増えています。4K撮影ができる機種も登場し、画質、性能面においてクオリティの高い動画が撮影できるようになりました。ビデオカメラの優位性は失われつつあり、市場は縮小傾向と言えます。とはいえ子供の成長記録などにハンディタイプのビデオカメラを選ぶ方はまだまだおります。それぞれの長所、短所を把握しお客様の要望に沿った商品を提案できるようにしましょう。

カメラステップアップ表

		ステップ1 全店取組	ステップ2 強化店取組	ステップ3 専門店取組
買取	商品知識	☐ 店長はフィルムカメラや各メディア規格の基礎知識を備えており指導ができる 【商品マニュアル】フィルムカメラ 【商品マニュアル】デジタルカメラ	☐ 店長は中判カメラや各社高級レンズの基礎知識を備えおり指導ができる ☐ レンズの種類やスペックを正確に理解している (F値や望遠・広角の見分け、APS-C専用がわかりその旨を記載など)	☐ 店長はライカ・コンタックス・中判カメラなど、高度な専門性を要する機材の知識を備えており指導ができる ☐ ライカ・コンタックス・中判カメラなど、専門的なカメラの買い取りが正確にできる
		☐ デジタルカメラの基礎知識があり、バッテリーの注文ができる	☐ 中判カメラの買い取りが正確にできる	☐
		☐ レンズの正確な型番が書ける 型番の探し方	☐	☐
		☐ チャージャーとバッテリーが付属しているか確認できる	☐	☐
		☐ レンズのカビ、チリ、埃を確認できる レンズの状態確認	☐	☐
		☐ マルチバッテリーチャージャー を使用できる	☐	☐
生産	生産	☐ フィルターも積極的に中古化している	☐ ストラップも積極的に中古化している	☐ ライト照準を用いて、センサーやレンズの状態確認ができる
		☐ デジタルカメラの生産ができる カメラの生産方法	☐ フィルムカメラの生産ができる カメラの生産方法	☐ 中判カメラの生産ができる
		☐ 店長は修理判断と修理依頼ができる →カメラPJの修理先リンク※契約結んでるか	☐ センサークリーニングができる	☐ 修理判断と修理依頼ができる
	設備	☐ センサークリーニング用のブローヤライトを常備している	☐ 「 ショット数.com 」等を利用し、カメラのシャッター回数を調べることができる シャッター耐久回数を確認し、目安を超える場合は減額し、その旨を明記している	☐ 高度な修理依頼や、中判カメラのチェックに必要な設備・体制を構築している
陳列	プライスカード	☐ レンズの型番やSDカードの種類を正確に記載している ☐ 撮影に影響のない難(液晶の黄ばみ等)を記載している	☐	☐ カビやバルサム切れなど撮影や他機材への感染に関わる致命的な症状を正確に判定・明記している カビやバルサム切れについて
	陳列	☐ 買い取り見本となるゴールデンラインに「ミラーレス一眼」を配置している カメラコーナー	☐ ボリュームを拡大し、ライカ・コンタックス・中判カメラなどの高級機材を導入・展開している	☐ 圧倒的な品揃えで専門フロア化し、高級機材を充実させて展開している
販売	販売	☐ 対応する各種メディアを正確に案内できる (SDカードの種類など)	☐	☐
	オフモール	☐ 正確な型番を入力し、液晶の黄ばみや軽微な拭きキズなどの状態を明確に記載できる	☐ 使用感のある中～高級機は、シャッター耐久回数(ショット数)を確認して状態に記載できる	☐ 専門的な機材の状態を詳細かつ正確に記載できる (カビやバルサム切れの有無など)

チャレンジャーC以上のスタッフができているか

ブランド名		メーカー	生産国	型番	レンズ	フィルム	モジュール	解説
アーガス ブrown	ARGUS BROWN	ARGUS アーガス	アメリカ			620	6＊6	アメリカの大手カメラメーカーのアーガス社の二眼レフです。この会社は35mmカメラでは日本でも名前が通っていましたがこの分野ではほとんど入っていません。アメリカ本土仕様の為620フィルムです。
アーガス 75	ARGUS SEVENTY FIVE	アーガス ARGUS	アメリカ			620	6＊6	アーガス社の入門用の二眼レフです。アメリカらしく620フィルムに簡単なカメラ、フラッシュ前提のようなカメラです。
アイレス ヴィスカウント	AIRES VISCOUNT	アイレス	日本			135	24＊36	アイレス35の進化系でレンズのきれいで定評のあったカメラです。アイレスカメラ独特の重さのあるものです。
アイレス フレックス	AIRES FLEX	アイレス	日本		ニッコール・ズイコー・コーラル	120	6＊6	自社のレンズ以外にニッコールやズイコーという当時の高級レンズを搭載したカメラを送り出し、ドイツ式のやり方で評価を得ていました。当然、レンズの違いで新品の時も今も、価格が違います。ズイコーには白濁したものがあつたため中古の時は要注意です。白濁が無ければ良く切れるレンズです。コーラルも評判のよいレンズでした。
アイレス35	AIRES	アイレス	日本	I・II・III・バイカウント	コーラル	135	24＊36	戦後の35mmレンズシャッター全盛時代に国内・輸出共に人気のあったカメラです。
アグファ アンスコ	AGFA ANSCO	ANSCO	アメリカ(ドイツ)			120	6＊9	第二次世界大戦後占領下のドイツでアメリカのアンスコ社がOEMで作らせたものです。アンスコといってもドイツ・アグファが作ったものですから完全ドイツ基準です。前蓋の裏にその旨のプレートがあります。
アグファ メモ	AGFA MEMO	アグファ AGFA	ドイツ			135特殊カートリッジ	24＊36	アグファ社の35mm入門機のスプリングカメラですが特殊なカートリッジに入ったフィルムを使います。カートリッジがあれば今の35mmフィルムを巻き直して使えそうです。
アサヒ ペンタックス	ASAHI PENTAX	旭光学	日本		タクマー	135	24＊36	ご存知ペンタックスです。日本の35mm一眼レフの草分け「アサヒ・フレックス」の後継機種としてペンタプリズム採用でデビューし、ネーミングもそこに由来しています。 変らぬテーマは「小型・軽量」です。重厚で多機能な一眼レフが開発される中で、ひたすら小型で使いよいものを目指しました。それゆえにメカマニアには頼りなく見える面もありました。総合メーカーの多い中でここはあまり余所見をしないで一眼レフを主力に生産を続けました。
アサヒ フレックス	ASAHI FLEX	旭光学	日本		タクマー	135	24＊36	アサヒペンタックスの前身です。日本初の35mm一眼レフで、ペンタプリズムではなく上から覗くウエストレbel・ファインダーでした。ウエストレbelの機動性の無さをカバーするために巻き戻しノブのそばに逆ガリレオタイプのファインダーを用意したスタイルです。このアサヒフレックスが改良されて、シャッターのあとで画像が見えなくなる一眼レフの欠点の克服や、左右逆になるレフ形カメラの欠点をカバーして正像の見える小型の五角プリズム・ペンタプリズムの開発などが進みました。この開発が進むことにより一眼レフ時代をリードすること
アジフラッシュ	AGIFLASH	アジラックス AGILUX	英国			127	4＊4	英国アジラックス社の半分おもちゃのカメラです。新品では日本に一台も輸入されなかったと思います。
アジフォルド	AGIFOLD	アジラックス AGILUX	英国			120	6＊6	独創性に飛んだ機構を採用するアジラックス社の6＊6スプリングカメラです。カメラリストにもありますがこれもアイディア一杯です。
アトム シックス	ATOM 6	アトム光機	日本			120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされたスプリングカメラです。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。 前玉回転の普及機です。
アドラー シックス	ADLER 6	理研 リコー	日本		アドラー	120	6＊6	後のリコーの作ったスプリングカメラです。リコーシックスの名前で出ているものもあるようです。
アトラス 35	ATLUS 35	大和光機	日本		ルミノール	135	24＊36	戦後の町工場のメーカーの一つで大田区にあつたようです。大量に輸出やれたようです。双子のカメラも存在するようです。
アニー 44	ANNY 44		日本			127	4＊4	メーカーは不明ですが日本製の4＊4距離計まがいの窓付きのカメラです。対米輸出用でしようね、シャッターは単速の簡単なものです。
アミ フレックス	AMI FLEX	関東光学	日本		アミー	120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。 前玉回転の普及機です。
アルゴ ス	ARGUS ARGOFLEX	ARGUS アーガス	アメリカ			120	6＊6	アメリカの大手カメラメーカーのアーガス社の二眼レフです。この会社は35mmカメラでは日本でも名前が通っていましたがこの分野ではほとんど入っていません。120仕様のものはそのまま使えます。
アルコ 35	ALCO 35		日本			135	24＊36	日本では珍しい35mmのスプリングカメラです。レチナより一回り大きいですが良くまとまったスタイルのカメラです。コンバーターレンズも用意されていたようです。アクセサリーシューに丸い外付けファインダーを乗せたスタイルが印象的なカメラです。 数が少ないので希少価値が出ているようです。
アルゼン		高橋光学	日本		グリーンメル	127	4＊4	非常に珍しい4＊4のレンジファインダーのカメラです。1938年から42年という戦争の足音の聞こえる時代に作られたものです。
アルティ シックス	ARTI-SIX		英国			120		細かい蛇腹?の沈胴式的なカメラです。ゾーンフォーカス、シャッター三連…ベークライト製の半分おもちゃ的入門機のようなです。かなり珍しいかもしれません。
アルファ アルバ	ALPA	ALPA	スイス			135	24＊36	スイス製の一眼レフで独特の設計思想で作られています。ピント合わせ用のペンタゴンとフレーミング用のファインダーの両方を備えています。マニアには人気があるようです。
アルペン フレックス	ALPEN FLEX	八陽光学	日本		アルポ	120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
アンスコ クリッパー	ANSCO CLIPPER	ANSCO	アメリカ			620	6＊4.5	前板飛び出し式のスプリングカメラで入門用の簡単なものです。おもちゃに限りなく近いものです。
アンスコ セット	ANSCO SET	ANSCO＊MINOLTA	日本		アンスコロココール45mm2.8	135	24＊36	アンスコの名前が付いていますがミノルタ製の35mmカメラです。セレン式露出計を備えミノルタハイマティックあたりと同じようなものと思われます。カメラ生産が上手でないアメリカにはこのようなOEMものが多く出回っています。1960頃
イカレックス	ICAREX	ツァイス	ドイツ		テッサー他	135	24＊36	ツァイスの作った35mm一眼レフの一つです。中級機の位置づけで出されました。
イコネッテ	IKONETTE	ツァイス	ドイツ		フロンター80mm7	127	4＊4	1920年代のスプリングカメラです。非常にシンプルなカメラの時代です。
イコフレックス	IKOFLEX	ツァイス・イコン ZEISS IKON	ドイツ		テッサー・ノバー	120	6＊6	ツァイスの6＊6二眼レフで戦前からローラーフレックスのライバルとして作られました。非常にがっちりとしたカメラで自動巻き止めやセルフフォーキングの採用なども積極的に行つた意欲的なものです。
イコンタ	IKONTA	ツァイス・イコン ZEISS IKON	ドイツ		テッサー・ノバー	120・135・620	6＊9・6＊6＊4.5・4＊4	ツァイス・イコン社の代表的なブランドです。高級機種に使われました。基本的には中判のスプリングカメラです。 距離計の付いたものを『スーパードイコンタ』と呼びます。 ツァイスのカメラの場合〇〇〇／××と言う型式番号を使い××が2なら6＊9、16なら6＊6、24なら35mm、無しならセミ判となっています。
イソカ フレックス	ISOCA FLEX	磯川光機	日本		イソコール	120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
イソレッテ	ISOLLETTE／JSOLLETTE	アグファ AGFA	ドイツ	I II III	アグナー・アポタール・ゾリナー	120	6＊6	アグファ社の6＊6スプリングカメラで比較的安く売られたのでたくさん出ています。ボディも張り革が早くからビニールになり、アメリカンスタイルで高級感には乏しいところがあります。高級レンズゾリナーの付いたものは他社の高級ヒント同じレベルのものです。
インスタマティク	INSTAMATIC	コダック	アメリカ			126		コダックがフィルム交換の簡略化を図って作ったカメラですが今ではフィルムの供給も無く使えないカメラになっています。ほとんどがフラッシュ装備が前提のアメリカ式のもので、国内もメーカーも追従した時代があります。 後年のAPSと同様です。
インペリアル	HERCO IMPERIAL	ヘルコ HERCO	アメリカ			620	6＊6	典型的なアメリカのボックスカメラです。ベークライト製ボディに簡単なレンズとシャッターで押せば何とかが写ると言うものです。暗ければフラッシュをたけばよいというアメリカ流です。
ヴィテッサ	VITESSA	フォクトレンダー	ドイツ		スコパー	135	24＊36	フォクトレンダーらしい独創性にとんだ35mmカメラです。観音開きの蛇腹カメラで蓋を開けると上と飛び出してくる煙突のような坊を押し下げてフィルムを捲くものです。一度見れば忘れないものです。機構的に複雑で多少トラブルの元になるようです。デザインも横長のきれいなものです。
ヴィテッサ T	VITESSA T	フォクトレンダー	ドイツ		カラスコカバー50mm2.8 ダイナレツ100mm4.8 スコバレット35mm	135	24＊36	ヴィテッサの進化系でフォルムの美しさはそのままで蛇腹をやめ、その代わりにレンズ交換式に仕上げてきました。ころころしたカメラが多いドイツの中では横長のスマートなものです。ヴィテッサと共にフォクトレンダーを代表するものですが、新品当時は日本国内にはあまり入ってきませんでした。
ウエスター シックス	WESTER 6	西田光学	日本			120	6＊6	戦後のスプリングカメラ全盛時代に乱立した物の一つです。輸出を中心に作られたものが多いです。

ウエラ	WERRA	ツァイス・イコン ZEISS IKON	ドイツ	1・2・3	テッサー	135	24＊36	ツァイスのコンパクト35mmカメラでレンズフードを逆にかぶせてレンズキャップをかけるとケースのような独特のスタイルが目につくシンプルなデザインのものです。色もグリーンのものがあるなど気の利いたものです。
ウェル	WELL	日本光機	日本		ウェル	127	4＊4	輸出が主なマーケットとなったカメラです。沈胴式のレンズと4＊5というモジュールの独特のものです。
ウェルタックス	WELTA WELTAX	ウェルタ	ドイツ		トリオブラン75mm 3. 5	120	6＊6	ウェルタの6＊6スプリングカメラです。1939年から1956年まで作られています。東側の製品になってしまいましたから戦後はなじみ薄になっています。
ウェルタ フレックス	WELTA FLEX	WELTA	ドイツ		レクトン	120	6＊6	ウェルタの二眼レフです。レンズも色々あるようです。ソ連占領下の東ドイツに取り残された悲劇のウェルタが作り上げた美しいものです。非常に重いカメラです。
ウェルティニ	WELTA WEITINI	ウェルタ	ドイツ		カッサー他	135	24＊36	ウェルタの35mmスプリングカメラです。コンパーシャッターに距離計内蔵など先進的なものでした。
ウエルミー 35	WELMY 35	大成光機	日本			135	24＊36	スプリングカメラで名をはせた大成光機の35mmカメラです。輸出用のカリマーブランドでも出ています。
ウエルミー シックス	WELMY 6	大成光機	日本		テリナー	120	6＊6	大成光機のスプリングカメラでかなりの数が輸出されたようです。距離計内蔵式のものまで各種作られています。
ウエルミー ワイド	WELMY WIDE	大成光機	日本		タイコール35mm 3. 5	135	24＊36	ウエルミーでは唯一つのワイドつき35mmカメラです。距離計無しのシンプルなものです。
エディネックス	EDINEX	WIRGIN	ドイツ		エディナー	135	24＊36	大衆機の35mmカメラです。一応フロンターシャッターが使われていますから完全なカメラだと思われます。
エブナー	EBNER	EBNER	アメリカ		エブナー105mm 4. 5		6＊9	レコードプレーヤーを作っていたメーカーのようです。シャッターも1～1/250までありますから中級機だと思います。フィルムが不明です、120か620
エミー	EMY K35	大城光学	日本		フジヤマ エミネン タ	135	24＊36	戦後の35mmレンズシャッターカメラ輸出全盛時代に作られたもので、まさに輸出用にレンズ名もMADE IN JAPANを売り込んでいます。このメーカーも浜松の東郷堂同様地方都市伊東にありました。
エルコナ	ERCONA	東ドイツ・ツァイス	東ドイツ		テッサー	120	6＊9・6 ＊6	東西分裂後に東ドイツで作られたイコンタで521/2などの外付け二重露光防止機能つきの機種などをこう呼びますが、設計も仕上げも全く同じものです。
エレガ 35	ELEGA 35	日東写真用品	日本			135	24＊36	戦後の35mmレンズシャッターカメラ輸出全盛時代に作られたもので、ロータリー式シャッターを持つ国産では珍しいものです。
エレガ フレックス	ELEGA FLEX	日東写真用品	日本			120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
エリザ フレックス	ELIZA FLEX	銀鈴光機	日本			120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
エルボー フレックス	ELBOW FLEX	エルボー商会	日本			120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
エンサイン 16ー20	ENSIGN 16ー20	ロス・エンサイン	英国		ロス・エクスプレス… エンサー	120	6＊6	エンサイン社の6＊6スプリングカメラでロス・エクスプレスがついたものが高級バージョンです。
エンサイン 820	ENSIGN	ロス・エンサイン	英国		ロス・エクスプレス… エンサー	120	6＊9/6 ＊6	エンサイン社の高級6＊9スプリングカメラです。サイズ切り替えのマスクはカメラに内蔵されていますから、中古でもマスクがなくなっていることはありません。ロス・エクスプレスは切れのよさで定評があります。このカメラを持つならこのレンズが欲しいものです。英国では最高のものです。
エンサイン グレイ ハウンド	ENSIGN GRAYHAUND	ロス・エンサイン	英国			120	6＊9	1930年代前半のスプリングカメラでレリーズでシャッターを切る時代のものです。実用性とかではなく時代物として貴重なものでしょうね。
エンサイン レン ジャー	ENSIGN RANGER	ロス・エンサイン	英国		エンサー105mm 6. 3	120	6＊6	エンサイン社の6＊9スプリングカメラです。820Iに比べ普及機に作られています。
オート ウルトリッ クス	AUTO ULTRIX	IHAGEE	ドイツ			127	4＊4	4＊4のスプリングカメラですがIHAGEEが作った数少ないものです。1930年代
オートテラ	AUTOーTERA	寺岡精工所	日本			135	24＊36	大田区に合ったメーカーが作ったもので国内ではあまり出なかったようです。
オブティマ	AGFA OPTIMA	AGFA	ドイツ		カラー…オプタール 他	135	24＊36	アグファのレンズシャッターレンジファインダーの35mmカメラです。ドイツらしく横に短いスタイルです。
オリンパス 35S	OLYMPUS 35 S	オリンパス	日本		ズイコー	135	24＊36	オリンパス35を発展させ、当時最先端のレバー巻上げ、距離計連動、f1. 9までの明るいレンズを盛り込んで、コンカ・アイレス・ロード・ミノルタなどと共に国産35mm全盛時代を迎える時のカメラです。
オリンパス シック ス	OLYMPUS 6	高千穂写真工業 オリンパス	日本		ズイコー	120	6＊6	オリンパスのスプリングカメラで当時的高級品でしたが、後年になり、自慢のズイコーレンズに白濁と言う問題が生じたため、中古市場では評価が低くなっています。白濁が無ければ一級品のレンズですが…
オリンパス トリップ 35	OLYMPUR TRIP 3 5	オリンパス	日本		ズイコー	135	24＊36	オリンパスの35mmカメラで露出計組み込みなど簡単に撮れる事を目標に作られSシリーズ以降の市場ではかなりの数出ています。このあたりからのズイコーには白濁の心配も無いようです。
オリンパス フレック ス	OLYMPUS FLE X	オリンパス	日本		ズイコー	120	6＊6	オリンパスが自慢のズイコーレンズを搭載して送り出した高級一眼レフです。残念ながら、後年、レンズの白濁と言う材質上のトラブルが発生し、評価が落ちてしまいました。トラブルの無い物もあり、そちらは高い評価がされています。
オリンパス ペン	OLYMPUS PEN	オリンパス	日本		ズイコー	135	18＊24	ハーフサイズカメラブームの引き金を引いたカメラです。最初のDズイコー付きの単純なものでEEのもので色んなものが作られました。普通に構えると縦位置になるセミ判と同様な構図になります。最終的には一眼レフのペンFで進化しましたが、画質面でハンディがあるのと、日本が経済的に楽になりフィルム代が安いと言うメリットが薄れると共に時代が終わりました。今は、コレクターに人気があります。
オリンパス ペン F	OLYMPUS PEN F	オリンパス	日本		ズイコー	135	18＊24	オリンパスペンの最終進化系のハーフサイズ一眼レフです。独特のミラーの動かし方とスタイルで人気を博しました。ハーフサイズ最高のカメラで最後の輝きでした。
オリンパス 35	OLYMPUS 35	オリンパス	日本		ズイコー	135	24＊36	レンズシャッターの35mmカメラの草分け的な定番カメラです。距離計連動前のシンプルな形で顕微鏡で磨いたレンズ技術で定評がありました。レントゲン写真や顕微鏡写真用のカメラと言えばこのオリンパス35の改造型でした。
オリンピック B	OLYMPIC B		日本		オリンピック	127	3＊4	輸出専用日本製と思われるベスト判の簡単なカメラです。シャッターはB1/25・1/50です。見かけはアメリカ製のようにおもちゃ然とはしていません。
カードン	KARDON		アメリカ		コダック・エクター	135	24＊36	珍しいアメリカ製のライカコピー機です。詳細は分かりませんが全く見掛けはコピーですがコダックレンズにアーガスのような歯車があります。ボディは日本のOEM[か？
カデット	ANSOO CADET	アンスコ ANSCO	アメリカ		アンスカー	127	4＊4	アメリカ式4＊4ベークライトカメラです。これもアメリカ式にフラッシュを使うことを前提の作られています。
カリマー A		大成光機	日本		テリオノン	135	24＊36	TAISEIのOEM輸出用のブランドです。カリマー社は輸入カメラ専用の商社名です。1954年に設立されたようです。カメラはウエルミー35と同じものです。
カリマー シックス		フジタ	日本			120	6＊6	カリマー社のOEM製品として提供したもので、フジタシックスと同じものです。高級アマチュアとプロ用として定評のあるものです。
カルム	CRLM	日本光機	日本		カルム	120	6＊6	戦後のスプリングカメラ全盛時代に乱立した物一つです。輸出を中心に作られたものが多いです。
カロ ワイド	KARO WIDE	コーワ	日本			135	24＊36	レンズシャッターのワイド専用カメラとして人気のあったオリンパスワイドの対抗馬です。露出計を組み込んだモデルFも発売し、人気を集めたカメラです。

カロ フレックス	KARO FLEX	コーワ	日本		プロミナー	120	6＊6	コーワの二眼レフで1950年ごろからの製品です。後にプロ志向のカメラメーカーに発展する要素を含んだしっかりしたカメラです。
カロマツ 36	KAROMAT 36		ドイツ		クセナー	135	24＊36	ドイツのコンパクト35mm距離計運動型カメラです。日本には輸入されていなかったようです。ありふれたデザインです。
キコ セミ	KIKO	木川光学	日本			120	6＊4.5	戦後のスプリングカメラ全盛時代に乱立した物の一つです。輸出を中心に作られたものが多いです。
キエフ	KIEV	キエフ	ソ連 シア	口	1～4	135	24＊36	コンタックスのデッドコピーとして誕生したカメラです。戦利品として接収した機械・設計図と技術者をキエフに運び生産開始したので、当初のものは部品一つに至るまでコンタックスそのものでした。金属フールカールブレンなど設計は一流ののですが、光漏れが出ることもあるため、モルトの整備などに機を配る必要があります。 割安でコンタックスやソ連製の6＊6一眼レフでいろんな型が作られています。最近では中古が流入しているようです。モルトの不調とかのトラブルが見られるようです。
キエフ 60ー88	KIEV 60	キエフ	ソ連 シア	口	60・88	120	6＊6	数少ないフランス製のスプリングカメラです。リンクあり
キナックス	KINAX	IPO	フランス			620	6＊9	
キャノネット	CANONET	キャノン	日本			135	24＊35	キャノンの大衆用35mmレンジファインダーカメラです。キャノンのカメラと言うことと、少し優しいデザインで女性ファンにも受け入れられました。簡単カメラの始まりです。
キャノン	CANON	キャノン	日本	I～Ⅶ	ライカマウント	135	24＊36	ライカコピー機の一つとして生産されたカメラの一つですが、早くから独自路線を歩み、ライカの不便なところ、二穴式ファインダーを廃止しファインダーと距離計を統合してゆきました。品質の良さと使いやすで、国産ライカ互換機の中で最高級機種としての地位を確立し、生き延びました。コンタックスからスタートして勇となった『ニコン』に対しライカからスタートを抑えて商業の裏でライカと対峙したのです。
キャノン P	CANON P	キャノン	日本		ライカマウント	135	24＊36	P＝ポピュラー…普及品として発売されたものです。普及品と銘打っても一軸式・金属旗シャッターの採用や明るいファインダー、専用露出計など、キャノンの高級機とほとんど変わらないスペックを維持していました。サブカメラとして愛用されましたが、最高級カメラメーカーの普及品は商業的には成功しにくいのはニコンも同じでした。キャノンを持つ以上は上乗せの理がなければならぬのです。ライカも同様です。
キャノン オートボーイ	CANON AUTOBOY	キャノン	日本			135	18＊24	キャノンのハーフサイズカメラですがグリップ代わりのぜんまいを巻くことにより巻上げとシャッターチャージを自動で行うものです。リコーのオートハーフとの競争でした。独特のスタイルです。OEMでアメリカに出していますからオークションなどでは別名のものが出てきます。
キャノン デミ	CANON DEMI	キャノン	日本			135	18＊24	キャノンのハーフカメラです。オートボーイと違いスタンダードなものです。キャンらしく少し柔らかなめのデザインです。
キング・レギュラ・ジプシー	KING REGULA JIPSY	KINGREGULA	ドイツ		カッサー	135	24＊36	ドイツの35mmカメラです。このメーカーは入門用のシンプルカメラも作っていましたが、これはカッサーレンズを搭載して中級を狙ったものと思われます。
キンダー	KIN-DAR	KIN-DAR	アメリカ		カッサー	135		アメリカ製のステレオカメラですがレンズはドイツのSTEINHEILのカッサーを使っています。距離計運動の高級用です。1954年
クラック	AGFA CLACK	アグファ AGFA	ドイツ			120	6＊6	アグファ社の入門用6＊6ボックスカメラです。ゾーンフォーカスなどの簡単な機構ですが他のフィルムメーカーの入門機同様きちんと写るものです。完全なオモカメとは一線を画すものです。
クラブマン	ROS ENSIGN CLUBMAN	ロス・エンサイン	英国		ロスター他	620	6＊9	ロスエンサインのスプリングカメラで120の820などと同違えないでください。これは620フィルムを使用しますから巻き代えなどの作業が要ります。1954～57
ゲルト フレックス	GELTO FLEX	東亜光機	日本		グリーンメル	120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。1950年当時、これは明らかにドイツ製を意識したネーミングです。当時からやはりドイツ製が高級品として受け入れられていたのです。
コーワ シックス	KOWA 6	コーワ	日本		コーワ	120/220	6＊6	コーワの一眼レフ6＊6カメラです。レンズシャッターを採用しています。高級アマチュアからプロ用を意識したカメラです。発売は1968年頃です。
コカレッテ	COCARETTE	ツァイス・イコン ZEISS	ドイツ		テッサー他	120	6＊9	ツァイスの6＊9スプリングカメラの一種です。戦前に作られた高級品です。
コダック66	KODAK 66	コダック KODAK	英国	1・2・3		120	6＊6	英国コダック社が本国の620仕様に逆らって作った120のカメラです。基本性能はきちんと押さえた物です。見かけは多少アメリカ好みの安っぽいところがあります。
コダック エクトラ	KODAK EKTRA	コダック	アメリカ		エクトラ50mm1.9	135	24＊36	なんともこつし35mmカメラです。単車だらけダイヤルだけの奇妙なものです。詳細不明ながらレンズ交換も可能かと思われます。メダリストを思わせませす。
コッホマン コレレ	KOCHMANN KORELLE	KORELLE	ドイツ		エノルダー	120	6＊6	非常にユニークな形のスプリングカメラです。平行に飛び出すレンズボードと一緒に前蓋もついて来る、他では見られないものです。独特のカメラを作るコレレらしいものです。
コニ フレックス	KONI FLEX	小西六	日本		ヘキサノン	120	6＊6	小西六が送り出した高級二眼レフです。焦点の部を少し動かさないとシャッターが切れないような安全装置など、アイデアも詰め込み、定評のあるレンズと共に、今でも評価の高いものです。
コニカ I II III	KONICA 1 2 3	小西六	日本	1～3	ヘキサノン	135	24＊36	戦前からの名門小西六写真工業の送り出した35mmカメラで、がつしりした作りと、独創性のあるレンズ協のレバーでフィルムを巻くシステムを採用したりで人気があり、特徴のあるものです。中古市場ではマニアの間で高値で取り引きされているようです。
コニレット	KONILET	小西六	日本			135	24＊36	小西六が送り出した入門用のスプリングカメラです。安っぽい感じはしますがフィルムメーカが出したものですからきちんと写真は取れるものです。
コマ フレックス S	KOMA FLEX S	コーワ	日本		プロミナー	127	4＊4	コーワのベスト判レンズシャッター一眼レフという珍しいものです。1962年当時に生産され輸出もされています。
コマンド	COMAND	エンサイン ENSIGN	英国	1・2	エンサー ロス・ エクスプレス	120	6＊6	エンサイン社の距離計運動の6＊6スプリングカメラです。マミヤ・シックスと同じように、フィルム面を前後させてピントを合わせます。ドイツに頼っていた軍用カメラを自国内で作成する必要に迫られて開発したものです。翌年度には民生用として2型が発売されました。
コロール 24	KOROLL 24		イタリア			120	6＊4.5	珍しいイタリア製の6＊6カメラです。アルミむき出しという感じのカメラです。格付けは初級用というところです。イタリアと言うだけで珍しいカメラには入ります。
コロリスト	TDC COLORIST	TDC	ドイツ		ローデンシュトック トリナー35mm	135	24＊24	ステレオカメラです。35mmフィルムを使うもので24＊24のサイズを一画面に撮影します。日本では普及しませんでした。がアメリカなどでは人気があり色んなものが出ています。日本製の輸出されました。
コンタックス	CONTAX	ツァイス・イコン ZEISS IKON	ドイツ		テッサー・ソナー	135	24＊36	ツァイスのフォーカールブレン・レンジファインダーの最高級ブランドです。ライカのライバル機種で、先進性ではこちらの方が上でしたが、売れ行きでは負けてしまいました。ニコンタイプ原型です。コピー機にはソ連のキエフなどがあります。 レンズのマウントはバヨネット方式の『コンタックス・マウント』です。基本的にはニコンマウントとは同じはずなのですが、少しのずれがあるようです。
コンタフレックス	CONTAFLEX	ツァイス・イコン ZEISS IKON	ドイツ			135		ツァイスが一番レフ時代に向けて発売したのですが、日本製の一眼レフに比べて中途半端な感じで商業的にはうまく行きませんでした。
コンタレックス	CONTALEX	ツァイス・イコン ZEISS IKON	ドイツ			135	24＊36	ツァイスの高級一眼レフでコンタックスの後継機種として発売されました。ペンタプリズムのところに露出計の丸い受光部のある機種が印象的なカメラです。
コンティナ	CONTINA	ツァイス・イコン ZEISS IKON	ドイツ		テッサー	135	24＊36	コンテッサよりあとのカメラで普通の二重像合致方式距離計を載せたスプリングカメラです。個性が消えたともいえるでしょうね。
コンテッサ	CONTESSA	ツァイス・イコン ZEISS IKON	ドイツ		テッサー・ノバー	135	24＊36	ツァイスの35mmスプリングカメラの最高級ブランドです。露出計内蔵、距離計運動と最高のスペックを誇ります。レチナのライバルでしたが、売り上げ的にはレチナに勝っていませんでした。
コンテッサネット		ツァイス・イコン ZEISS IKON	ドイツ		テッサー・ノバー	135	24＊36	ツァイスの高級機コンテッサの普及機版です。運動距離計を省くなどコストダウンを図っていますが、作りはあくまでもがっちりと言う『ツァイス流』のカメラです。
コンパニオン	COMPANION	BRADAK	チェコ		トリオブラン	120	6＊6	別名Kamaradと呼ばれているようです。1937年ごろの生産でシャッターもコンバーなのですが…チェコと言うことです。希少なのかも…
ゼイタックス	ZEITAX	ゼイタックスカメラ	日本			120	6＊4.5	ローマ字読みすると？？なネーミングのカメラです。戦後のカメラ産業乱立時代の産物です。

サモカ 35	SAMOCA		日本	エズマー	135	24 * 36	おもちゃカメラの代表格です。おもちゃと言えどもきちんとしたカメラです。国内海外共にたくさん出ています。スタートと並ぶ日本の誇るオモカメの雄です。今でもファンクラブがあるくらいです。
シーガル	SEAGUL 海鸥		中国		120	6 * 6	中国の6 * 6 二眼レフです。これはずっと生産され日本向けにも輸出されています。程度の良い物がたくさんあるようです。ロシアのカメラほどマニアは居ないようです。
シアーズ	SEARS	各社	各国				カタログ販売の大手シアーズが販売したものの頭にこれが付くものが多いです。OEM生産されたものでペンタックスのような高級品からインスタマチックなどのおもちゃ的なものまであります。
シアーズ KXS	SEARS KXS	旭光学	日本		135	24 * 36	アサヒペンタックスのアメリカ向けOEM商品です。アメリカの小売業トップのシアーズ経由で売られたため、海外ではかなりの数があります。カメラはペンタックスそのままです。
ジェフィー	KODAK JEFFY	KODAK コダック	アメリカ		620	6 * 9	アメリカコダック社のスプリングカメラです。コダックらしく620フィルムです。飾り以外にはあえて使う事も無いでしょう。
シェブロン	KODAK CHEVRON	KODAK コダック	アメリカ	カリマー			詳細はよく分かりませんがシャッター速度が1／600まであるところを見ると高級品化と思います。距離計連動真四角画面です。4 * 4あたりでしょうか？
シグネット	KODAK SIGNET	コダック	アメリカ	エクター	135	24 * 36	コダックの35mm距離計連動コンパクト機です。レンズ、シャッター共にきちんとしたものを使った世界レベルの製品です。1950年代に売られています。
シヤンハイ	上海 SHANGHAI		中国		120	6 * 6	中国製の6 * 6スプリングカメラで新しいものが多いようです。二眼レフを含め中国や東側諸国では120のカメラが近年まで作られていますからです。
ジュニア	JUNIOR 620	コダック KODAK	アメリカ		620	6 * 9	USAコダックの入門用スプリングカメラ 620フィルム仕様のためそのままでは使えません。120フィルムを巻きなおせば使えます。
シロ 35	CIRO 35	グラフレックス	アメリカ	グラフター	135	24 * 35	Wollensak・・・グラフレックスの35mmカメラです。アメリカ製でも35mmカメラはフィルムが共通ですから購入しても問題ありません。グラフレックスも大きいカメラは一流ですが小さくなってくると普通？のカメラです。
シロフレックス	CIRO FLEX	グラフレックス	アメリカ	VELOSTIGMAT85 mm3. 5	120	6 * 6	Wollensak・・・グラフレックスの二眼レフです。アメリカ製では最高級クラスのものです。三脚穴がボディ横にあるのもユニークです。
スーパー・イコンタ	SUPER/IKONTA	ツァイス・イコン ZEISS IKON	ドイツ	テッサ	120	6 * 9・6 * 6・6 * 4. 5	ツァイス・イコンの看板スプリングカメラで、距離計連動という戦前では貴重なものでした。レンズやシャッターなどはイコンタと共通ですから、そちらを選べば同じ写真が安く撮ることが出来ます。
スーパー フレックス	SUPER FLEX	スーパー写真	日本		120	6 * 6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
スカイフレックス	SKY FLEX	東郷堂	日本	トリローザ	120	6 * 6	豊橋の東郷堂の二眼レフで当時評判のよかった富岡のトリローザを載せています。1955年発売でトコフレックスと双子のカメラです。
スタート	START	アドックス ADOX	ドイツ	カサール	120	6 * 9	アドックス社のスプリングカメラですが、あまり数は無いようです。35mmの方では中級機から初級機で割りと見かけるメーカーです。
スタート 35	START 35	一光社	日本		135	24 * 36	おもちゃカメラの代表格です。おもちゃと言えどもきちんとしたカメラです。国内海外共にたくさん出ています。サモカと並ぶ日本の誇るオモカメの雄です。
スタール	STAHL	BIOLA	ドイツ		127 ?		簡単なボックスカメラです。半分おもちゃ？
ステキー	STEKY	リコー	日本	1～3b	16mm	10 * 14	リコーの16mmカメラです。16mmカメラは日本国内ではあまり普及しませんでした海外では随分使われたため、ミノルタなども大量に輸出しています。このステキーも国内では無名のカメラです。
スナッピー	SNAPPY		日本	OPTAR25mm TELECHERRY40mm			ミニチュアカメラでありながら交換レンズも用意されたマニアックなものです。レンズもライカタイプのレンズのようにデザインされたものです。日本製のはずですが詳細は不明です。
ズノー	ZUNOW	帝国光学	日本	ズノー1. 1	135	24 * 36	なんと言っても幻の機種です。最高のファインダーと称された一眼レフです。ペンタゴンの低いユニークなスタイルです。技術は後年のミランダに継承されたと言われます。完動品の品物が見つければ『お宝拝見』物ですよ。200万とか・・・
スパルタス 35	SPARTUS 35	スパルタス	アメリカ		135	24 * 36	シカゴ製の35mmカメラです。金属製のカメラですが大衆機だと思われます。日本ではあまり無いと思います。
スパルタス プレス フラッシュ	SPRTUS PRESS FLASH	スパルタス	アメリカ				詳細は不明ですが頭にフラッシュが突いたという様中電灯のようなフラッシュにカメラが組み込まれたと言うか、一体化した変わったものです。
スピード グラフィック	SPEED GRAPHIC	グラフレックス	アメリカ	オプター	120／他	6 * 9／他	戦前戦後のプレスカメラの代表格のカメラです。大きな個体に大きなフラッシュを付けた新聞社のカメラマンがアメリカ文明の象徴として世界中に広がりました。通称『スピグラ』です。
スプートニク	SPUTNIK	ソ連 ロシア			120	6 * 6	ソ連製のステレオカメラです。珍しい3眼レフです。75mmのレンズをリコーフレックスのような歯車で連結し3眼共に回しています。シャッターも1／125まであり完全なカメラのようです。
ゼニット C	ZENIT C	KMZ	ロシア	インダスタ他	135	24 * 36	ロシア製の一眼レフ。M39のスクリュマウントを採用しています。いかにもロシア製という感じのごついものです。
ゼノビア シックス	ZENOBIA 6	ゼノビア光学	日本	ネオベスパ	120	6 * 6	戦後のカメラ産業乱立時代のものです。国内、国外共にかなりの数が出た中堅の会社のものです。
ゼノビア フレックス	ZENOBIA FLEX	ゼノビア光学	日本	ネオベスパ	120	6 * 6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。このメーカーはスプリングカメラも作っていました。
セミ・ゲルト	SEMI GELTO	東亜光機	日本		120	6 * 4. 5	シックス判も出しているメーカーですが、当時の一流品の多かったドイツを意識したネーミングです。
セミ・スポルト	SEMI SPORT				120	6 * 4. 5	戦後のスプリングカメラ全盛時代に乱立した物の一つです。輸出を中心に作られたものが多いです。
セミ・パール	SEMI PARL	小西六	日本	ヘキサノン	120	6 * 4. 5	小西六写真工業の小型スプリングカメラでレンズのよさから、今でもファンの多いものです。基本的にはパールと同じレベルのものです。
セミ・ファースト	SEMI FIRST	大同精工	日本		120	6 * 4. 5	スプリングカメラや二眼レフを手がけていたメーカーのものでファーストカメラからの発売と言われています。
セミ・レオタックス	SEMI LEOTAX		日本		120	6 * 4. 5	ライカ型35mmカメラを作り評判を呼んだレオタックスのスプリングカメラで35mm同様、海外での評価が高かったものです。丁寧に作られていることには定評があります。
セム フレックス	SEMFLEX	SOM Berthiot	フランス		120	6 * 6	占領下のドイツで作られたらしきフランスの二眼レフです。ファインダーフードの周りがグレーで作られファッション性を強調したらしきものです。
セルカ フレックス	SELCA FLEX	協和光学	日本	セルター	120	6 * 6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
セルト シックス	CERTO SIX		ドイツ	テッサ	120	6 * 6	レバー巻上げ・距離計連動の高級スプリングカメラ最後の頃のカメラです。
セルフィックス 820	SELFIX 820	エンサイン ENSIGN	英国	エンサー ロス・エクスプレス	120	6 * 9／6 * 6	エンサイン社の高級スプリングカメラで、高級バージョンのロス・エクスプレス・レンズはその描写力で根強いファンが居ます。マスクはカメラに内蔵されていますから、他のカメラのように紛失していることはありません。

セルフィックス 820	SELFIX	エンサイン ENSIGN	英国		エンサー ロス・ エクスプレス	120	6＊6	エンサイン社の高級スプリングカメラで、6＊6高級バージョンのロス・エクスプレス・レンズはその描写力で根強いファンが居ます。マスクはカメラに内蔵されていますから、他のカメラのように紛失していることはありません。
ゼンザ プロニカ	ZENZA BRONICA	BRONICA プロニ カ	日本		ニッコール／他	120	6＊6	ライターメーカー、プロニカが送り出した6＊6一眼レフです。スタイルはハッセルに似ていますが、一回り大きくなりま す。機能はかなりたくさん盛り込まれ、レンズもニッコールの供給を受けるなど世界最高を目指したものです。発売以来、 今でも、現役で活躍しているものがたくさんあります。
ソーイアー マーク Ⅳ	SOYEAR	東京光学	日本		トプコール	127	4＊4	東京光学がアメリカのソーイアー社向けに作った4＊4二眼レフで、プリモ・ジュニアと同じものです。1958年から60年くら いのものです。
ソリダ	SOLIDA	フランカ FRANKA	ドイツ		ラジオナール・フラン カー・トリオータル など	120	6＊6／6 ＊4. 5	中堅メーカー、フランカ社の6＊6スプリングカメラで距離計運動のものやシンプルな物まで色んなバリエーションがあり ます。
ゾルキー	ZORKI	ソ連 シア		ソ連 シア	ライカマウント	135	24＊36	ソ連製のライカコピー機です。キエフ同様ドイツから戦利品として接收した機械と設計図で生産を開始したものです。当 初は全くのコピーで、名前までライカを名乗ったものまで出ています。
ダースト 66	DURST 66	DURST	イタリア		DUPLON80mm		6＊6	6＊6の入門用カメラと言うことは分かりますが、120か620か分かりません。ダーストも引伸機などの会社かどうかも 分かりません。
ダースト オートマ ティカ	DURST AUTOMATICA	DURST	イタリア		ダースト・ラジオ ナール	135	24＊36	イタリア製の35mmカメラですがレンズはドイツ、シュナイダーのものが使われています。レバー巻上げなどの仕上げはも うひとつです。ただ、レンズがラジオナールなのでそれなりに写るはずです。
ダイアックス	DIAX		ドイツ			135	24＊36	ドイツのコンパクト35mm距離計運動型カメラです。日本には輸入されていなかったようです。
ダイアナ	DYANA		アメリカ			120ー 135		おもちゃカメラの代表選手です。いろいろなサイズのものが有り結構たくさん使われたようです。日本のフジベント程度の ものばかりです。
タイタン	TITAN	アンスコ ANSCO	アメリカ		アンスコ	120	6＊6	アグファから提供を受けた6＊6スプリングカメラで「スピーデックス」と同じものです。ドイツからのカメラのため、120フィ ルム仕様です。レンズもアンスコ名になっていますがアグファのものと思われます。
ダイドー シックス	DAIDO 6	大同精工	日本		ダイドー	120	6＊6	戦後のスプリングカメラ全盛時代に乱立した物も一つです。輸出を中心に作られたものが多いです。
タロン	TARON		日本			135	24＊36	レンズシャッター式35mmカメラの全盛時代に作られたカメラで、輸出も随分されたようです。横長基調のスマートな印象 のカメラです。
タワー Ⅲ	TOWER Ⅲ	ひのまるや	日本		ライカマウント	135	24＊36	国内ではニッカⅢと呼ばれるものです。アメリカの小売業トップのシアーズにOEMとして納入されたものです。作りのよさ と、フォルムのきれいさで定評のある、ライカコピー機です。
チャイカ	CHAYKA	ソ連 シア		ソ連 シア	インダスター69	135	18＊24	ソ連製のハーフサイズカメラです。意外とスマートにまとめられたものでシャッターも1／250まであるようです。耐久性 その他には疑問があります。
チヨタックス	CHIYOTAX	千代田商會	日本		ライカマウント	135	24＊36	ライカコピー機の一つです。東京の千代田商會が出したもので販売時期は短いものです。コピー機とは言え日本のもの は丁寧に作られています。
ツーリスト	TOURIST	コダック KODAK	アメリカ			620	6＊9	USAコダックの中級スプリングカメラ 620フィルム仕様のためそのままでは使えません。120フィルムを巻きなおせば 使えます。
ツバサ フレックス	TUBASA FLEX	木川光学	日本			120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわから ない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。こ のブランドもその一つです。 前玉回転式の普及機です。
テクサー	TEXER		中国			120	6＊6	中国製らしき二眼レフです。赤窓式前屈した繰り出しですが詳細は不明です。
デ ジュール	DeJUR	DeJur	ドイツ		カタ	135	24＊36	多分、距離計を作っているメーカーと同じだと思います。簡単な35mmカメラです。巻上げがレバーでも無しクラックのよ うな変わった形です。
テッシーナ35	TESSINA 35	LUGANO	スイス		TESSINON	135	14＊21	専用カートリッジに入れた35mmフィルムを使うもので、変則的な二眼レフです。撮影画像も鏡で90度曲げられてフィ ルムに届きます。ゼンマイ仕掛けで5～8枚連続撮影が出来ます。珍カメラです。
テナックス	TENAX	ツァイス・イコン ZEISS IKON	ドイツ		テッサー・ノバー	135	24＊24・ 24＊36	テナックスには完全に違う2種類のカメラがあります。 一つは非常にユニークなものでレンズシャッター式レンズ交換カ メラで原板サイズも24＊24と言う特殊なものです。レンズは35mm・標準・75mmと用意されていました。非常に希少 価値のあるものです。 もう一つは普通のレンズシャッター35mmカメラです。こちらは中級機としてたくさん出ていま す。
デュアフレックス	DUAFLEX	KODAK コダック	アメリカ			620	6＊6	コダックの二眼レフで当然のように620フィルムを使わなくてはなりません。性能から言っても実用品ではありません。
デュオ 6ー20	DOU-SIX-20	コダック KODAK	アメリカ			620	6＊6／6 ＊4. 5	USAコダックの6＊6スプリングカメラ 620フィルム仕様のためそのままでは使えません。120フィルムを巻きなおせば 使えます。
トプコネット	TOPCONETTE	東京光学	日本			135	24＊36	トプコンの35mmレンズシャッター一眼レフです。非常に数が少ないものです。クイックリターンなども付いているよう です。セレン式露出計組み込みなど一眼レフブームの時のものです。ドイツ各社を意識して輸出用の物かと思われます。
トプコン	TOPCON	東京光学	日本			135	24＊36	トプコンの一眼レフで頭のペンタゴン部分がとんがっていないスタイルが目立つものです。光学レンズ専門メーカーの 作ったものでレンズには定評があります。国内よりも海外での評価が高かったものです。国内でも固定したファンが居 るようです。
トプコン ウィン ク	TOPCON WINK	東京光学	日本		トプコール	135	24＊36	トプコンのレンズシャッター一眼レフです。セレン式露出計、名前どおりにクイックリターンミラーなどを備えています。日 本ではこの式の一眼レフは普及しませんでした。これも海外で活躍したのかもかもしれません。
トヨカ フレックス	TOYOCA FLEX	東郷堂	日本		トリター TRITAR	120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。豊橋にあったこのメーカーは色んなカメラ を内外に向け発売しました。
ドリーナ	DOLLINA	CERTO	ドイツ		クセナー50mm2. 8	135	24＊36	セルトの35mmスプリングカメラですが距離計のダイヤルがカメラの横に突き出している独特のスタイルです。1939年 ごろ、コンバー1／300
ドリナ フレックス	DRINA FLEX	東京光機	日本		ドリマー	120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわから ない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。こ のブランドもその一つです。 前玉回転式の普及機です。
ドリュウ	DORYU	ドリュウ	日本				16mm	ピストル型をした独特な16mmカメラです。フラッシュもマグネシウム弾をピストルの上部に装填して発火させると言う遊び 心満点のものです。数が出なかったのか市場にはほとんど出てきません。
ニコノス	NIKONOS	日本光学	日本		ニッコール	135	24＊36	ニコンの送り出した、水陸両用カメラです。発売以来40年間改良を重ねながら進化しました。Oリングの発明を受けて開 発されたもので、それまではごついハウジングの中にカメラを入れて水中専用でしか使えなかったものの、そのままで簡単 に水中撮影が出来ると言うので、評判を呼びました。 水中撮影を身近なものにした功績は非常に大きいと思います。
ニコン F	NIKON F	日本光学	日本		ニッコール	135	24＊36	日本光学が発売したペンタプリズム式一眼レフの一号機ですが、設計思想の先進性で長年基本設計の変更無し でニコンの一眼レフは進化しました。レンズのFマウントもエレクトロニクス時代で電気接点の導入とか以外の変更無しで 数十年と言う年々に耐えてきました。今では、クラシックカメラの中に入られることも多いですが、現役で動いているも のの大半はここにあります。 売れっ子カメラの地位は今もなお保ち、歴々の頂点とも言われる世界最 ニコンのレンジファインダー・フォーカルプレーンシャッターのカメラです。最初にはコンタックスの真似からのスタートでし たが、改良を重ねるうちに本家のツァイスを追い越しSPに至っては世界最高峰のカメラになりました。近年になりUS3が復 刻版として限定販売されましたが、2005年にはSPが復刻・限定販売されます。72mmと言う破格の値段になります。レ ンズ交換時に専用工具が必要で、レンズ交換時にカメラの内部機構が壊れる、ペンタゴンの取付が難しい、シャッター の寿命が短い、ライカコピー機の一つですが、ボディのきれいな曲線が印象的なカメラです。工作精度のよさと共に同種カメラの中でも 評価の高いものです。

ノボ 35	NOBO 35	第百精光	日本		富岡光学 ローザ	トリ	135	24 * 36	戦後の35mmレンズシャッターカメラ輸出全盛時代に作られたもので、当時評判のよかったトリローザを載せています。。
ノリタ 66	NORITA 66	ノリタ光学	日本				120	6 * 6	後にトプコンに吸収されましたが、グラフレックスのブランド名をかぶっていました。フォーカルプレーンシャッターの6 * 6一眼レフで。プロ用を意識したものです。
パーソナル	VIEWMASTER PARSONAL	ビューマスター	アメリカ				135	24*24	ステレオカメラです。日本では普及しませんでした但欧米ではかなり普及してカメラもビュワーとかステレオプロジェクターも色々発売されています。日本からも輸出されています。
パール	PARL	小西六	日本	1・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	ヘキサノン		120	6 * 6	最初は六桜社という会社になっていますが、途中からは小西六写真工業が発売し、表看板になるほどの評判を得たカメラです。使われたヘキサノン・ヘキサーは当時としては最高の評価を受け、今でもかなりのファンがいます。
バイキング	VIKING	アグファ アンスコ	AGFA ANSCO ドイツ (アメリカ)		アグナー・アポター ル・ゾリナー		120・62 0	6 * 9	ドイツアグファ社の6 * 9スプリングカメラですが、アメリカアンスコ社向けのOEMでも出され、対米輸出用には620仕様の物あるようです。使用フィルムを確認しないと面倒になります。
バクシナ 29	PAXINA 29	ブラウン	BRAUN ドイツ		STEINASR 75mm 2. 9		120	6 * 6	6*6カメラの中では珍しい沈胴式レンズを使ったものです。大衆機のレベルですが意外としつかりたものです。小さいことと蛇腹など無いことからオックスフォード大学の洞窟クラブが探検に使ったそうです。
バクセッテ	PAXETTE	ブラウン	BRAUN ドイツ		カタゴン・		135	24 * 36	ブラウン社の35mmカメラです。他社のレンズや自社のレンズを使い、積極的に露出計を組み込むなど、独自性を出そうとしたカメラが多いです。
ハニーウエル ペンタックス	HONEYWELL PENTAX	ハニーウエル+旭光 学	日本		タクマー		135	24 * 36	アサヒペンタックスがムービー機器メーカーのハニーウエル社向けにOEM生産したもので、ペンタックスのロゴの上にHONEYWELLの文字が入ります。
パックス	PAX	大和光機	日本	M2	ルミノール45mm 3. 5		135	24 * 36	一眼レンズ交換のライカコピー機に見えるような距離計運動のカメラです。ほとんど輸出専用カメラのため国内ではほとんどありません。
ハッセルブラッド	HESSELBLAD	ハッセルブラッド	ドイツ				120	6 * 6	6 * 6一眼レフの王者といわれています。レンズシャッターフィルムバック交換式のプロ、高級アマチュア用のものです。ボディ自体にはさほどの機能が無いわけで、レンズやフィルムバックのバリエーションに富んでいます。
パノン	PANON	パノン写真商工	日本	A～AⅢ	ヘキサノン 50mm		120		本格的なパノラマカメラでレンズが首を振り140度の画角で撮影できます。今のごまかしのパノラマではありません。120フィルムで6枚撮ります。シャッターはBと1/100・1/200の三連です。
ハリナ プレフェクト	HARINA PREFECT	HARINA	ハリナ 香港					6 * 6	かなり簡単な構造の二眼レフのようです。日本人にとっては実用品ではなくコレクション用でしょうね。
ハリナ ロールズ	HARINA ROLLS	HARINA	ハリナ 香港				135	24 * 36	入門用の35mmカメラ。いかにも香港の安カメラと言う感じのものです。
バルダー	BARDAR	バルダ	BALDA ドイツ						バルダ社のカメラでバルディックス同様、色んなメーカーのレンズとシャッターを組み合わせて作り上げています。バルダ社のカメラは割合と頑丈に作られています。性能は他のドイツカメラ同様レンズとシャッターの組み合わせで格が推測出来ます。
バルディックス	BALDIX	バルダ	BALDA ドイツ		エナゴン・バルダ ナー・ラディオナール		120	6 * 6	バルダ社のスプリングカメラです。戦前から戦後にかけてたくさんあったドイツの中堅カメラメーカーのもので、レンズもエナナ・ローデンシュトック・シュナイダー・自社ブランドなど色々な物を使い、シャッターもコンバー・プロンターなど色々です。組み立てもしっかりしており、後半の物は独自の自動巻きとめシステムが付いています。
バルディクセッテ	BALDIXETTE	バルダ	BALDA ドイツ		バルダー		120	6 * 6	バルダの沈胴式6 * 6カメラです。入門用のゾーンフォーカスのカメラです。
バルディネッテ	BALDINETTE	バルダ	BALDA ドイツ				135	24 * 36	バルダ社の35mmカメラです。手堅く作られたドイツらしいカメラです。
バルフェクタ	PARFEKTA	WELTA	ドイツ		テッサー等		120	6 * 6	ウェルタ社の意欲的？な二眼レフです。二眼レフでありながら蛇腹がついて量めると言うものです。実用性はともかく珍しいものです。
バロン シックス	BARRON 6	中央精機	日本				120	6 * 6 / 6 * 4. 5	1950年当時のスプリングカメラ時代に作られたものです。あまり数は無いようです。
ビジョン 35	PIGEON	遠藤カメラ 光機	信濃 日本		ビジョン		135	24 * 36	戦後の35mmレンズシャッターカメラ全盛時代1950年当時に作られたものです。製造元と発売元がはっきりした日本では珍しいカメラです。。
ビジョン ス フレックス	PIGEON FLEX	遠藤カメラ 光機	信濃 日本		トリローザー		120	6 * 6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。 人気のトリローザを載せています。
ピックス	PIX	DRUOPTA	チェコスロ バキア				120		チェコ製の固定焦点F11と16シャッター-B・25・50・75と言う初心者用カメラです。ベークライトと金属板の二眼レフカメラです。
ビトー I II IIa	VITO	フォクトレンダー VOIGTLANDER	ドイツ	I II IIa	カラスコパー		135	24 * 36	フォクトレンダーの35mmスプリングカメラです。名玉カラー・スコーパーを搭載しシンクロコンバーやフロンターなどシャッターのバリエーションがあります。最後の方でアクセサリシューが付き、距離計の付いた物も出ました。
ビトー a b	VITO a b	フォクトレンダー VOIGTLANDER	ドイツ	a b	カラスコパー等		135	24 * 36	フォクトレンダーの35mmカメラです同じ名前でもこちらは普通のスタイルのカメラです。大きなファインダーが特徴的なものです。セレン式露出計がついたものが多いようです。
ビトマティック	VITOMATIC	フォクトレンダー VOIGTLANDER	ドイツ		カラスコパー等		135	24 * 36	フォクトレンダーの35mmカメラ。露出計内蔵式のカメラの始まり時代のもので。セレン式露出計は壊れていなければ電池が不要なため今でも使うことが出来ます。
ビューティ 35	BEAUTY 35	太陽堂	日本		カンター		135	24 * 36	東京・板橋にあった太陽堂の35mmカメラです。1950年代から60年当時までの製造です。この頃は35mmレンズシャッターカメラ全盛でメーカーも乱立していました。
ビューティ フレックス	BEAUTY FLEX	太陽堂	日本		カンター		120	6 * 6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
ビュルマ スペシャル	PURMA SPECIAL	PURMA	英国		BECK		127	34 * 34	金属製3速フォーカルプレーンシャッターとか一見おもちゃ風ですがそうでもないのかなと言う感じです。スタイルもユニークです。プラスチックレンズを使っているようです。
ファースト シックス	FIRST 6	常盤精機	日本				120	6 * 6	戦後のスプリングカメラ全盛時代に乱立した物の一つです。輸出を中心に作られたものが多いです。
ファースト フレックス	FIRST FLEX	常盤精機	日本				120	6 * 6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。 前五回転の普及機です。
フェニックス	FENIX	WARSAWSKIE	ポーランド		EUKTER45mm2. 8		135	24 * 36	珍しいポーランド製の35mmカメラです。距離計無しシャッターは1 / 10～1 / 250の普及機です。シンクロX接点もついています。写り等は不明です。
フォクトレンダー	FOIGHTLANDER	メーカー名	ドイツ		ヘリアー スコ パー フォイター 等	—	—	—	世界最古の光学メーカーと言われてます。戦前戦後に色々なタイプのカメラを作りました。会社消滅後、日本のコシナがブランド名を取得して同じ名前で作っていますが、一応別物と考えてよいと思います。
フォス ディアックス	VOSS DIAX	VOSS	ドイツ		クセナー		135	24 * 36	ドイツ製レンズシャッター、レンズ交換35mmカメラです。ドイツには非常に多いパターンです。ファインダーは50mmと85～90mm用が組み込まれています。
フォートン	FORTON	フォートン FORTON	アメリカ				828	25 * 25	アメリカで訪問販売、カートリッジフィルム、無料プリントなどの営業方針で1960年代に販売された特殊なのですが、会社倒産後は資材の供給が無く使えなくなっています。
フォス フレックス	FOTH FLEX	FOTH フォス					120	6 * 6	フォーカルプレーンシャッター採用の変り種二眼レフですが、そのほかのところで特別なところのおもです。希少価値はあるようです。
フジカ シックス	FUJICA 6	FUJIM 富士 フィルム	日本				120	6 * 6	富士フィルムの6 * 6スプリングカメラで軍艦部分を少し丸めた形が印象的なものです。かなり高級品の部門に入りました。

フジタ シックス	FUJITA 6	フジタ	日本			120	6＊6	プロ・スタジオ用を意識した6＊6一眼レフの高級品です。アメリカ・カリマー社へOEM輸出もされています。
フジベツト 66	FUJIPET	富士フィルム	日本		メニスカス単眼	120	6＊6	元祖フジベツト…プラスチックボディのカメラでもおちやに近いのですが、メニスカス単玉のレンズはかなりのもので、おもちゃとは違いきちんと写るものです。これを買ってもらって写真を撮始めた子供も多いでしょう。写真普及に關しての貢献度は大きなものです。
フジベツト35	FUJIPET 35	富士フィルム	日本		メニスカス単眼	135	24＊36	富士フィルムが写真の普及のために送り出した、プラスチックボディの35mm低価格カメラです。今のレンズ月フィルムに近いものですが、簡単でそこそこ写ると言うので、写真入門や行楽のお供に使われました。今では、マニアの蒐集対象です
ブラクチカ	PRAKTICA FLEX	IHAGEE	ドイツ		テッサー他	135	24＊36	35mm1眼レフを築き上げた功労者の一つです。ブラクチカマウントとして他社も採用したくらいです。交換レンズも各社から各種出ています。
フラッシュ パンタム	KODAK FLASH BANTAM	KODAK コダック	アメリカ			828	28＊40	今は無き828フィルムを使うスプリングカメラです。参考資料の項にある会社では作成しているようですが普通には入手できません。
ブラッド ウイン フレックス	BLADWIN FLEX	ナショナル カメラ	アメリカ		Maestar 57.5mm		4＊4	アメリカ製の4＊4二眼レフです。金属製のようにですが、アメリカ製らしい入門用のものと思われれます。
フランカ デュアル	FRANKA DUAL	フランカ FRANKA	ドイツ			120	6＊6／6＊4.5	フランカの入門用の単速シャッター絞り三段のスプリングカメラです。ゾーンフォーカスになっていてかんげんに入門用ですがマスクによりフォーマットが変えられます。
フランク スックス	FRANK 6	東成光機	日本		せりたー	120	6＊6	ドイツにフランカーと言メーカーがありますがこれは関係ありません。戦後のスプリングカメラ時代に乱立したメーカーの一つです。
プリズマツト	PRIZMAT	マミヤ	日本		セコール48mm2.8	135	24＊36	マミヤのレンズシャッターレンズ固定の一眼レフです。クイックリターンミラーも付いています。一眼レフ時代に入り各社が作ったレンズシャッター一眼の一つです。しかし、レンズの変わらないズームでもない一眼はコンパクトカメラとの事実上の差は無く、複雑で高くなるだけのデメリットが目立ち消えて行きました。
プリモ	PRIMO SEMI	第一機工	日本			120	6＊4.5	スプリングカメラ全盛時代に作られたセミ判ものです。東京光学との関係は不明です。
プリモ ジュニア	PRIMO Jr	プリモ 東京光学	日本		トーコー	127	4＊4	東京光学のしっかり作られた4＊4二眼レフです。地味な印象ですがレンズのよさもあり、人気のあったものです。
プリモ フレックス	PRIMO FLEX	プリモ 東京光学	日本		トーコー	120	6＊6	プリモというブランド名は映写機などでは良く通っていたものです。東京光学のトプコンに発展してゆくもので、品質のしっかりしたカメラとして評価されています。
ブリラント	BRILLANT	VOIGTLANDER フォクトレンダー	ドイツ		フォイター・スコパー・ヘリアー	120	6＊6	フォクトレンダーの二眼レフカメラで最高級のヘリアー付きの物も存在します。ローラーやイコフレックスに隠れて地味な存在になっていますが、カラスコパーやヘリアーつきのものは最高の評価を得ています。
プリンス フレックス	PRINCE FLEX	東洋精機光学	日本		ルミナー	120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
フルビュー フレックス	FULLVUE	エンサイン ENSIGN	英国			120	6＊6	エンサインの二眼レフですがセルフィックスなどと違いこちらはおもちゃに近い品物です。エンサインもフィルムメーカーですら、写真の普及とフィルム販売拡張の為にフジベツト的なカメラも出したわけです。これはコダックやアグファなどのフィルムメーカにも共通する作戦です。
フレクスレット	FLEXARET	MEOPTA メオプタ	チェコスロバキア	I・II・III・IV・V・VI・VII	ヘラー／他	120	6＊6	旧チェコスロバキアの東陣営最高の光学メーカメオプタ社の二眼レフカメラです。近年まで生産されていたので新しい型のものは程度のよいものが多いです。35mmフィルムが使えるローライキンのような物もあります。信頼性の高いものです。
プレスバン	PRESSBAN	鈴木光学 服部時計店	日本			120／135	6＊6／24＊36	非常にユニークなカメラで120で6＊6を撮影し35mmのフィルムも使えるというスプリングカメラです。発売が服部時計店になっています。ファインダーも6＊6とは別に35mmの物も用意されています。形はプレスカメラをイメージしたものです。
ブローニー スターフラッシュ	BROWNIE STAR FLASH	コダック	アメリカ			127	4＊4	コダックのフラッシュ付きベークライト製の入門カメラです。典型的アメリカカメラです。こうした4＊4カメラでボジの写真を撮りスライドで鑑賞するのがアメリカのスタイルでした。4＊4は35mmと同じ大きさのマウントで同じプロジェクターが使えます。
ブローニー スターフレックス	BRWNIE STARFLEX	KODAK コダック	アメリカ			127	4＊4	コダックの4＊4二眼レフで120フィルムを使わなくてはなりません。性能から言っても実用品ではありません。
ブローニー ターゲット	BRWNIE TARGET	KODAK コダック	アメリカ			127	4＊4	コダックのボックスカメラの代表格です。入門機として大量に出たらしくふんだんにオークションには出てきます。ただし、USAコダックは127とか620とかフィルムの供給が無いものが多いです。
ブローニー ターゲット シックスー20	BROWNIE TARGET SIX-20	KODAK コダック	アメリカ			620	6＊6	コダックの典型的ボックスカメラで620規格のフィルムを使います。120のフィルムを巻きかえれば使えますがあえてそこまでするほどのカメラではありません。一連のアメリカコダックのカメラと同様です。
ブロニカ	ZENZA BRONICA	ブロニカ	日本		ニッコール他	120	6＊6	日本製の6＊6高級一眼レフでハッセルの向こうを張ったものです。初期にはニッコールの供給を受けていました。こちらはフォーカルプレーンを使いレンズの自由は大きいです。サイズは一回り大きくなります。
プロミネント	PROMINENT	VOIGTLANDER フォクトレンダー	ドイツ		ウルトロン他	135	24＊36	フォクトレンダーのレンズシャッター、レンジファインダーのレンズ交換式カメラです。レンズシャッター式の中では意欲的なカメラです。レチナのようにコンバーターではないのでレンズの性能は犠牲になりません。
ベスター シックス	VESTER 6	銀鈴光機	日本			120	6＊6	スプリングカメラ全盛時代の製品です。丁寧に作られていると言われています。
ベセラー トプコン	BESELLAR TOPCON	トプコン	日本		トプコール	135	24＊36	トプコンの対米輸出用のブランドです。エギザクマウント採用です。交換レンズの多様さで海外ではかなりの数が出回りました。
ベッサ	BESSA	フォクトレンダー VOIGTLANDER	ドイツ		フォクター・スコパー・ヘリアー	120	6＊9／6＊4.5	戦前、戦後を通じて多様なレンズとシャッターで作られたスプリングカメラのスタンダードナンバーです。当時のドイツカメラの常識とおりレンズによって格が変わります。戦後になりスコパーとヘリアーはカラー・スコパー、カラー・ヘリアーと名前を変えてマーケティングが付きましました。ヘリアーつきは最高級で数も無く高価なものになります。
ベッサ 新	BESSA japan	COSINA	日本			135	24＊36	フォクトレンダー社が消えて年月が経過した後、日本の光学メーカコシナがブランド名の使用权を獲得して35mmレンジファインダーの高級機を出す時に使ったものです。旧来のものとは別のものと考えてるのが妥当だと思います。京セラ・コンタックスのようなものです。
ベッサ66	BESSA66	フォクトレンダー VOIGTLANDER	ドイツ		フォクター・スコパー・ヘリアー	120	6＊6	戦前から戦後すぐ位まで作られた6＊6スプリングカメラでコンパクトにすることを目標に設計されているので、ポケットにすっぽり入る大きさでまどめられています。
ペトリ 7	PETRI 7	PETRI 栗林	日本			120	24＊36	ペトリの35mmカメラですが、緑のファインダーで話題を呼んだものです。
ペトリ・シックス	PETRI 6	KURIBAYASI 栗林	日本			120	6＊6	35mmカメラメーカーとしてコンパクトから一眼レフまで作ったペトリの初期の製品です。このカメラも国内よりは対米輸出に向けられたので、国内では数の少ないものです。
ペトリ ハーフ	PETRI HALF	ペトリ	日本			135	18＊24	ペトリのハーフサイズカメラですが、この会社は国内よりもアメリカ市場でのほうが活躍した会社です。中古市場でも海外の方がたくさん見かけます。
ペトリ・フレックス	RETRIFLEX	ペトリ 栗林	日本			135	24＊36	栗林光学が作った一眼レフで、伝統の通り丁寧に作られたものです。国内では大手のカメラメーカーに押され、輸出を主体に作られていました。中古品も海外の方が多く残っているようです。
ベビー ローライ	BABY ROLLEI	ROLLEI ローライ	ドイツ			120	4＊4	4＊4の一眼レフで、性能はローライフレックスのものを受け継いでいます。二眼レフとしては小型になっていますが、4＊4と言うモジュールは真四角に焼く時は別として、悲痛の写真にする時は40＊27くらいにカットしてしまいます。すると、36＊24の35mmカメラとのさがあり無いことになります。機動性と、撮影枚数では全く勝ち目の無い戦いになり、ローライカメラのユニークなカメラです。ピント合わせは潜望鏡のような反射鏡を下ろして行い終われば引き上げます。フレーミングは普通のファインダーを使うと言う一眼レフもどきです。実用上は非常に使いづらいものだと思います。シャッターも1／1000まででも高級セックです。
ペリフレックス	PERIFLEX	K.G.Corfield	英国		Lumar50mm3.5	135	24＊36	英国製のユニークなカメラです。ピント合わせは潜望鏡のような反射鏡を下ろして行い終われば引き上げます。フレーミングは普通のファインダーを使うと言う一眼レフもどきです。実用上は非常に使いづらいものだと思います。シャッターも1／1000まででも高級セックです。
ベル アンド ハウエル	BELL & HOWELL	ブランド						一般的には8mmムービーカメラで有名な会社です。16mmを含め撮影機から映写機までそろえています。一部35mmカメラなどの手がけたようす。
ベルケオ	PELKEO	フォクトレンダー VOIGTLANDER	ドイツ		フォクター・スコパー	120	6＊6	スマートなスタイルの6＊6スプリングカメラです。ベッサ66より一回り大きくなっていますが、車庫部分にメッキをあしらうなど世代的な違いものになっています。

ベルフォカ	BELLFOCA	WELTA	ドイツ	I II	ボノータル105mm	120	6＊9／6＊6	ウエルタ社の社名が変わる頃に作られたスプリングカメラです。
ペルレ	PERLE	WELTA	ドイツ		クセナー・カッサー	120	6＊4. 5	ウエルタ社のスプリングカメラです。戦前に日本に入ってきた数少ないブランドです。6＊9の物もあります。珍しくバラルックス修正機能の付いたファインダーがついています。1930年代にもかかわらず、レンズが2. 9シャッターがコンバー1／400と言うものすごいスペックです。
ペンタコン 6	PENTAGON 6	ペンタコン	ドイツ		ツァイス他	120	6＊6	ツァイスのレンズを使った6＊6一眼レフで東ドイツ側の製品です。事実上ソ連向けになり品質的には段々悪くなったとも言われます。
ペンチ	PENTI	PENTAGON	ドイツ			135	24＊18	ハーフサイズのコンパクトカメラです。ヴィテッサに似た独特のフィルム巻上げ機構を持っています。金属の磨きだしのような色のカメラです。カートリッジが特殊なようです。ウエルタに分類されることもあります。
ホーク・アイ	HAWK-EYE	コダック KODAK	アメリカ			620	6＊9	USAコダックの高性能スプリングカメラ 620フィルム仕様のためそのままでは使えません。120フィルムを巻きなおせば使えます。
ホースマン プレス	HOUSEMAN PRESS	東京光学	日本			120／他	6＊9/他	日本発の本格的プレスカメラ・兼万能カメラとして出されたものです。スピグラやりん保父を意識して作られたものです。前後のアオリも効くスタイルで各分野で使われました。カム交換式距離計連動という機動性もありました。
ボイヤー	BOYER	ボイヤー	フランス				127？	フランス製の沈胴式らしきカメラです。シャッターが25と100絞りが二段のベークライト製の入門カメラです。
ボナフィクス	BONAFIX	フランカ FRANKA	ドイツ		ラディオナル・フランカー・トリオータルなど	120	6＊9／6＊6	中堅メーカー、フランカ社の6＊9スプリングカメラの代表機種「ロールフィックス」の兄弟分です。フランカ社はOEMで色んな会社へ供給していますから、2型などはどう見ても同じなのに名前が違うものがあります。
ポニー	KODAK PONY	コダック KODAK	アメリカ			135	24＊36	米国コダックの35mm普及機です。アメリカンスタイルの単純なカメラですから、それなりの性能しかありません。
ホビ フレックス	HOBIFLEX	東郷堂			トリローザー	120	6＊6	戦後の一時期色々なカメラを生み出した豊橋の東郷堂の一眼レフの一つです。
ポラロイド ランドカメラ	Polaroid Land Camera	ポラロイド	アメリカ			—	—	銀塩写真史上でも異色の発明品です。ネガを作らずに自家に反転して陽画を作るもので、最初は表紙を剥がす方式でしたが、後には自動的に飛び出して明いところそのまま像が出てきて定着する方式に進化しました。この特許をめぐってコダックと争ったのは有名です。距離測定もソナーを使うなど独特のものです。
ボルセイ C	BOLSEY	WOLLENSAK	アメリカ		ウォレンサーク	135	24＊36	35mmの一眼レフです。実用性はもうひとつだと思いますが独特のスタイルが目立ちます。
ボルセイ フレックス	BOLSEY	BOLSEY ボルセイ	アメリカ			120	6＊6	おもちゃに近い一眼レフです。距離調節はあるようですが、シャッターは単速のようです。
マーキュリー	MERCURY	ユニバーサルカメラ UNIVERSAL	アメリカ		トリコール	特殊 35mm	24*24	このカメラのスタイルは一度見たら忘れられないものです。カメラの上部、軍艦部が丸い半円形になっています。これはシャッターがロータリーシャッターと言う回転式のもののなので円盤の大きさの関係で特殊な形になったのです。高速回転する円盤で1/1000を得ています。製造が1938～42ですから、かなり進んだカメラです。フィルムは特殊カートリッジに1巻も2巻もフィルムなので巻き替えるのも、とりまき9個以上もいらないというすごい構造で、写真やフィルムを交換するときに、戦後のスプリングカメラ全盛時代に乱立した物も一つです。輸出を中心に作られたものが多いです。
マウント シックス	MOUNT 6	大成			マウント	120	6＊6	マミヤのボディ交換式のカメラです。レンズではなく中判カメラの様にフィルムバックにあたる部分を変えるもので35mmカメラでは見えない発想のものです。ただし、レンズシャッターの標準レンズのみでフィルム部分の交換するメリットがありません。希少品かも…
マガジン35	MAMIYA MAGAZIN 35	マミヤ	日本		セコール50mm2. 8	135	24＊36	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた一眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは一眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。 前玉回転の普及機です。
マゲン フレックス	MAGNIFLEX	クリスター光機	日本			120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた一眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは一眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。 前玉回転の普及機です。
マスミー フレックス	MASMYFLEX	高川光機	日本		モナー	120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた一眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは一眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。 前玉回転の普及機です。
マノン フレックス	MANONFLEX	三和商会	日本		エルナー	120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた一眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは一眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
マミヤ フレックス	MAMIYAFLEX	マミヤ	日本		セコール	120	6＊6	今では中判のプロや高級アマチュア用カメラのメーカーになっているマミヤ精光の一眼レフで、地味な存在ながらレンズのよさに定評がありました。一眼レフ時代が終わってもC22とかC330などのレンズ交換式一眼レフを作り続けました。
マミヤ ユニバーサル・プレス	MAMIYA UNIVERSALPRESS	マミヤ	日本		セコール	120／他	6＊9／他	マミヤが作ったプレスカメラで、蛇腹方式ではないため前のアオリは省略されていたが、後ろに蛇腹を入れて後ろのアオリが使える機種もあります。蛇腹式で無い分、機動性に富むため屋外での撮影には良く使われています。その分痛みの激しい物もあります。
マミヤ シックス	MAMIYA 6	MAMIYA 間宮光機	日本			120	6＊6	フィルム面を動かしてピントを合わせると言う細かい細工に成功し、中判スプリングカメラの弱点とされた距離計連動を実用化したカメラです。 その、操作性の良さは今でも高く評価されています。 レンズにはオリンパスのズイコーを載せたものや自社製のものなど各種あります。ズイコーには罫りの問題がありますから要注意です。
マルカ フレックス	MALLGAFLEX	武蔵製作所	日本		ホリナー	120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた一眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは一眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
ミズホ シックス	MIZUHO 6	瑞穂光機	日本		ルビノン	120	6＊6	戦後のスプリングカメラ全盛時代に乱立した物も一つです。輸出を中心に作られたものが多いです。
ミドル フレックス	MIDDLEFLEX	高羽	日本		ペリー	120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた一眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは一眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。 前玉回転の普及機です。
ミノックス	MINOX	MINOX	ドイツ			16mm		16mmカメラとしては一流品です。アクセサリも各種用意され完全に一つのジャンルとなっていた時代もありました。
ミノックス 35	MINOX 35	MINOX	ドイツ		ミノータル35mm2.8	135	24＊36	16mmカメラメーカーが時代の変化に対応して発売した35mmスプリングカメラです。本来のミノックスのポリシー通り携帯に便利でよく写るカメラです。ワイドレンズのついたスプリングカメラは珍しいものです。
ミノルタ 35	MINOLTA 35	千代田光学	日本	I・II	ライカマウント	135	24＊36	ライカコピー機ですが、チヨタックスとは違い、スタイルやフィルム装填などで独自性を打ち出したものです。この時代からはミノルタブランドが出ています。
ミノルタ オートコード	MINOLTA AUTOCORD	ミノルタ	日本		ロッコール	120	6＊6	日本の一眼レフの最高レベルのものといわれるものです。ローライフレックス同様のクランク式巻上げを採用し、機動力を上げ、ロッコールのように共にプロに愛用されたものです。人物写真で続けて何枚もシャッターを切るスタイルが始まった時代でもあります。
ミノルタ オートワイド	MINOLTA AUTOWIDE	ミノルタ	日本		ロッコール35mm2.8	135	24＊36	ミノルタのワイドつき35mmカメラです。大きなファインダーにセレンの露出計、少しずんぐりしたフォルム…ドイツのカメラを思わせるものです。オリンパスワイドほどは出回っていません。
ミノルタ シックス	MINOLTA 6	CHIYOKOU 千代田光学	日本			120	6＊6	千代田光学・ミノルタのスプリングカメラで普通の形式のものになる前には前板が飛び出す日本では少ないタイプの物も作っていました。レンズは後のロッコールに発展するものが付けられ、評判を得ました。
ミノルタ フレックス	MINOLTA FLEX	CHIYOKOU 千代田光学	日本			120	6＊6	ミノルタ・千代田光学の一眼レフでクランク式のフィルム巻上げのオートコードになる前の物で、比較的数字は少ないですが性能的には同じもので故障もこちらの方が少ないとも言われています。
ミノルタ 16	MINOLTA 16	ミノルタ	日本			16mm		ミノルタ製の16mmカメラで、完全な実用品として作られています。海外では高い評価を得ていました。16mmシネフィルムはイオまでも入手できますから使うことは出来ます。このカメラ用に引伸機まで発売するほど力を入れたものです。
ミノルタ A	MINOLTA A	千代田光学	日本	1～2		135	24＊36	丸っこいずんぐりのボディが特徴の35mmレンジファインダーカメラです。一斉に発売された距離計連動、レバー巻上げの35mmカメラの中で手堅いカメラ作りの千代田光学の姿勢が評価されたカメラです。一眼レフ時代に入りミノルタという社名になる以前は地味な印象のメーカーでした。
ミノルタ フレックスミニ	MINOLTA FLEX MINI	ミノルタ	日本			127	4＊4	ミノルタの4＊4一眼レフです。しっかりと作られたものですが、他の4＊4一眼レフ同様、その原板サイズの半端性から消えてゆく運命にありました。非常に少ないものです。
ミノン シックス	MINON 6	大和光機	日本			120	6＊6	スプリングカメラ全盛時代に作られたもので。距離計を内蔵させるなど高級志向の物も作られています。

ミハマ シックス	MIHAMA 6	三浜精工	日本		ミハマ	120	6＊6	非常に意欲的に作られたカメラだそうです。戦後の一時期に丁寧に組み立てられたものです。時代の変化と共に消えていったメーカーの一つです。
ミュージス フレックス	MUSE FLEX		日本					ボルダ版のおもちゃカメラです。
ミローナ	MILLONA	MEOPTA メオプタ	チェコスロバキア	1・2	ミラール	120	6＊6	旧チェコスロバキアの東陣営最高の光学メーカーメオプタ社のスプリングカメラです。2型にはレンズが1mm傾くアオリシステムが組み込まれています。建築物を写す時とかに歪を補正することが出来るとされていますがコンとガラスを使うようにはなっていませんから。経緯と勘に頼るしかないでしょうね。使い方は面白いカメラです。今でもメオプタ社の旧型に搭載されているレンズはよく売れています。
メイスビー ハーフ	MAYSPY HALF	東郷堂	日本		サンコール	135	24＊18	1930年ごろに豊橋で設立され数々のカメラを作った東郷堂のハーフサイズカメラで1959年当時の製造です。半分おもちゃですが、これで写真を撮始めた人も多いと思います。
メダリスト	MEDARIST	コダック KODAK	アメリカ	1・2		620／他	6＊9	USAコダックが米軍用に開発した運動距離計内蔵の高性能6＊9カメラです。一見、丸っこい35mmカメラに見えますが、大型のがっしりしたカメラです。620フィルム仕様ですが120フィルムを巻きなおしてでも使う価値がありそうです。
モスクワ	MOSKVA	ソ連 ロシア	I・II・III・IV・V			120	6＊9／6＊6	ソ連のツァイスイコン・イコンタのコピーからスタートしたスプリングカメラです。番号が進むほどにオリジナルからは離れてきました。初期のものはほとんど同じものです。ロシアカメラ全般の欠点、光漏れなどはやはり発生するようですから、こまめに手入れをして使う必要があります。最近では大量に流入しているようです。
モンテカルロ	MONTE CALRO	モンテカルロ	フランス			120	6＊9	数少ないフランス製のカメラです。6＊9のスプリングカメラです。1948年頃にはシャッターなどのレベル1/125は低いものです。シャッターケースの小窓から天候による露出などが分かるアイデアも見られます。
ヤシカ 44	YASHICA 44	ヤシカ	日本			127	4＊4	ベビーローライのコピーとして裁判沙汰にまでなったカメラです。完成度の高い4＊4フォーマートの二眼レフカメラです。ベビーローライ同様、4＊4と言う中途半端なフィルムサイズと二眼レフ時代の終焉と言うダブルパンチで短命に終わりました。
ヤシカ エレクトロ35	YASHICA ELECTRO 35	ヤシカ	日本		ヤシノン	135	24＊36	ヤシカを代表する35mmカメラです。横長のファインダーに名前の通り露出計内蔵のものです。レンズもf1.7とか大口径のものを載せています。むしろ後年になってから人気が出たようです。
ヤシカ フレックス	YASHICA FLEX	ヤシカ	日本	A・B・C・D・ルーキー・マット	ヤシノン	120	6＊6	大衆二眼レフの片方の勇としてリコーと争ったものです。スタートはヤシマ・フレックスとしてですが、すぐにヤシカブランドになっています。リコーに対抗しながらも、前板移動という高級機と同じスタイルを維持したため、最終的には国内の大衆機の王者になりました。しかしながら、あくまでも大衆機路線を歩んだため、高級マニアやプロからは一段低いものとされ、『ミノルタ・オートコード』『マミヤ・フレックス』などには及ばないと思われてきました。
ヤシマ フレックス	YASHIMA FLEX	八州光学	日本		トリローザー	120	6＊6	すぐにヤシカに変わりましたが、レンズのよさとしっかりした作りで、評判のよい物です。
ユニオン セミ	UNION SEMI	ユニオン光学	日本		コノール	120	6＊4.5	ドイツにフランカーと言メーカーがありますがこれは関係ありません。戦後のスプリングカメラ時代に乱立したメーカーの一つです。
ユニバーサル フレックス	UNIVERSAL FLEX		日本			120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
ライカ	LICA	ライツ	ドイツ	1・2・3・M		135	24＊36	35mmカメラの本家本元。ライカ科と言う言葉さえあるカメラです。35mmカメラの王者の座を譲ることはありませんでした。世界のレンズ交換式35mmカメラのほとんどはこのライカのまねから始まっています。
ライラ シックス	LYRA 6	富士光機			ライラ	120	6＊6	戦後のスプリングカメラ全盛時代に乱立した物も一つです。輸出を中心に作られたものが多いです。
ライラ フレックス	LYRA FLEX	富士光機	日本		フジコー	120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
ラファイエット		フルツ	日本		ラファイエット	135	24＊36	フルツの輸出専用の35mmカメラです。35mmの輸出が盛んな1980年ごろの製造です。
リーダ フレックス	LEADA FLEX		日本			120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。
リコー オートハーフ	RICOH AUTOHALF	リコー	日本			135	18＊24	ぜんまい仕掛けでフィルムを巻上げシャッターをチャージすると言うアイデアで爆発的人気を博しました。今なら、電池仕掛けで当たり前のことですが…メカ的に結構トラブルもありました。ハーフサイズズームの時の花形でした。
リコー 35	RICOH 35	理研 RICOH	日本	リコマット		135	24＊36	リコーの35mmカメラ1955～、そこについてピストルの引き金のようなトリガーレバーで巻上げを行うユニークなものです。レンズ脇にシャッター機構などのカバーの付いたスタイルも目立ちます。56年のデラックス型からはこのカバーがなくなり普通のカメラのように鏡筒の中に納まった全カバー型になりました。
リコー フレックス	RICOH FLEX	理研 RICOH	日本	I・II・III・IV・V・VI・VII・ダイヤ・スーパー・マジック	リコーン	120	6＊6	大衆用二眼レフの代名詞ともなったものです。上下のレンズを歯車で連結することによってピント合わせをするもので、レンズボデー(前板)を平行に動かすより簡単であり、コストダウンに役立ちました。リコーフレックスはボデーも鉄板をプレスしたものを、こちらでもアルミダイキャストに比べ安く上がりました。低価格と写りのよさを武器に内外共に良く売れたものです。ヤシカがライバルとして最初からアルミボデー。前板移動方式と言う高級機スタイルでコストダウンしてきてリコーの路線が偏光せざるを得なくなりV型までと、それ以降では
リコー 500	RICOH 500	リコー	日本			135	24＊36	カメラの底に付いた引き金トリガーレバーでフィルムを巻き上げる、アイデア商品です。国内ではキャンボも採用していたことがありません。
リコー シックス	RICOH 6	RIKENN リコー	日本			120	6＊6	二眼レフのイメージが強いリコーですが、一時期スプリングカメラも作っていました。輸出では結構出ていたようです。国内では珍しい部類に入ると思います。
リケン35	RIKEN35	理研 RICOH	日本		リコマット	135	24＊36	リコーの35mmカメラ 1954～距離計つきヘリコイドタイプのもので、横長のデザインです。
リゴーナ	BALDA RIGONA	バルダBALDA	ドイツ		リゴナル50mm 3.5	135	24＊36	バルダの35mmスプリングカメラです。距離計内蔵、二穴式ファインダーです。ライカなどとは違いフレーム用のファインダーはレンズの真上に持ってきています。フレーミングには良いですが機動性には劣るでしょうね。距離計がついているので名前CMESGがよくようです。
リコレット	RICHLET	RICOH	日本		リコー	135	24＊36	リコーの35mmカメラ 1953～55距離計無しから始まり後期には距離計つきに進化した前玉回転式のもので、
レイド III	REID	REID & SIGRIST	英国	III	TAYLOR HABSON	135	24＊36	ライカコピー機です。英国製となっていますが、シンクロ接点が二個並んだ丸みを帯びたきれいなカメラです。本当に英国でもライカコピー機を作っていたのでしょうか。シャッターは二軸1/1000まであります。おそらくニッカ川だと思われます。
レオタックス	LEOTAX		日本		ライカマウント	135	24＊36	ライカコピー機の一つですが、丁寧に作られたカメラの完成度と社長の思い入れが有名なカメラです。スタイルは完全なコピー機です。
レチナ	RETINA	コダック	ドイツ	I・I a・I b・II・II a・II c・III c	クセナー・エクター・テッサー	135	24＊38	35mmスプリングカメラの代表機種、完成形です。戦前戦後と作られ、同じ型番、同じレンズでもコーティングがあるものと無いものがあります。このカメラは特集したHPがたくさんあります。
レチナ フレックス	RETINA REFLEX	コダック	ドイツ		レチナ・クセノン他	135	24＊36	レチナブランドの一眼レフです。ドイツ各社が作ったようにビハインド・ザ・シャッター方式です。レンズもそろえて臨みましたが日本各社はレンズ交換に有利なフォーカルプレーン方式で一眼レフ化して行きレチナ・イコンなどのドイツ勢は押し出されてゆきました。
レチネット	RETINETTE	コダック	ドイツ		クセナー・エクター	135	24＊36	レチナより少し安いグレードで出された、普通タイプの35mmカメラです。これになると他社のカメラとの差はなくなってしまうです。ドイツの場合、自社レンズというものが少ないので、性能は同じものが出ています。操作性と好みの問題です。
レディフレックス	ANSCO REDIFLEX	アンスコ	アメリカ			620	6＊6	アンスコ社の二眼レフですがアメリカらしい入門機です。日本では珍しいですがフィルムが620なので注意が必要です。
レニングラード	LENINGRAD		ロシア		ジュビター他	135	24＊36	ゼンマイ仕掛けで動く1956～1968のもので、フォーカルプレーンで1/1000までの高級なスペックです。あまり見かけないカメラです。
レフレックス コレレ	REFLEX CORELLE	コッホマン KOCHMANN	ドイツ		テッサー他	120	6＊6	6＊6一眼レフとしてプロに使われたものです。フォーカルプレーンシャッターの高級機です。
レフレックス ビューティ	REFLEX BEAUTY	太陽堂	日本		キャンター75mm3.5他	120	6＊6	ビューティフレックスの太陽堂が作った6＊6の一眼レフです。レフレックス・コレレのようなスタイルでスクリュマウントのレンズ交換式です。シャッターはフォーカルプレーンです。非常に少ないものと思われます。
ロード	LOAD		チェコスロバキア			135	24＊36	同じ名前ですがチェコで作られた35mmカメラがあります。日本ではほとんどお目にかかることは無いと思います。レンズシャッターの大衆機です。
ロード 35	LOAD 35	岡谷光学	日本	1～5	ハイコール	135	24＊36	コンパクトにがっちり作られたレンズシャッターの名機の一つです。時代背景から、フィルムを途中で切断現象するためのカッターが内蔵されているユニークなものでした。フィルムが貴重なからこそアイデアです。地方の新聞記者などに使われていたようです。
ロードックス	LORDOX	LEIDOLF	ドイツ		ロードン	135	24＊36	35mm大衆機と思われます。1952～1957年製造とありますが詳細は不明です。
ローマー	UNIVERSAL ROAMER	ユニバーサルカメラ UNIVERSAL	アメリカ			620	6＊9	アメリカ製のスプリングカメラです。決して高級品ではありませんが金属ボディの丁寧に作られたものです。ただし、アメリカ製620です。
ローヤル 35	ROYAL 35	ローヤルカメラ	日本		トミノール	135	24＊36	戦後の35mmレンズシャッターカメラ輸出全盛時代1957年当時で作られたものです。豊島区江古田にあったそうです。
ローライ35	ROLLEI 35	ROLLEI ローライ	ドイツ		テッサー	135	24＊36	ローライが35mm時代に入って作ってレンジファインダーの35mmカメラです。見かけによらず高級品です。しかし、価格などからしてあまり受け入れられることが無くマニアのカメラであったようです。

ローライ コード	ROLLEI CORD	ROLLEI ローライ	ドイツ		トリオータル・クセナー	120	6＊6	ローライフレックスがあまりにも高価であり、販売面では苦しいものでしたので、基本性能を落とさないで、オートマート巻上げやセルフコッキングを省略して、コストダウンしたものです。最初のⅠ型はツァイスのトリオータルを載せましたが、ピントの甘いレンズであり、人物用以外には評判が悪く、それ以降はシュナイダーのクセナーを載せています。これは上級のフレックスにも載せられたことのあるものです。これにより、コードはフレックスに匹敵する写りをするようになりました。安くなったと言え、このコードでさえ一年分の給料では足りないとい
ローライ フレックス	ROLLEI FLEX	ROLLEI ローライ	ドイツ		テッサー・クセナー・クセナータル	120	6＊6	世界の二眼レフの王者です。二眼レフのスタイルを確立したカメラで、各種の特許も独占していました。早々と120フィルムなのに自動的に1枚目を設定して最後まで考えなくても、暗いところでも撮れる、オートマートを開発するなど、50年以上前でも今の120カメラよりも進んでいるほどのものでした。非常に高価なもので当時の日本では二年間働いても足りないほどのものでした。
ローライ マジック	ROLLEI MAGIC	ROLLEI ローライ	ドイツ			120	6＊6	ローライが二眼レフ時代が終わりに近づき、35mmが露出計連動・EEとか騒ぎ出した頃に開発して送り出したオートマートのカメラです。ライトバリューの感覚を導入したもので、一見便利ですが、カメラマンの意思に反するところもあり、今の一眼レフのように被写体を計るのではない標準的な反射式露出計の値を丸呑みにする欠点から、普及しませんでした。新しい割りに今の市場ではローライの中では安値になっています。
ロールフィックス	ROLEFIX	フランカFRANKA	ドイツ		ラディオナール・フランカー・トリオータルなど	120	6＊9／6＊6	中堅メーカー、フランカ社の6＊9スプリングカメラの代表機種です。フランカ社はほぼ同じものを「ボナフィックス」という名前で出しています。OEMで色んな会社に供給していますから、2型などはどう見ても同じなのに名前が違うと言うものがあります。
ローレル フレックス	LAURELFLEX	東京光学	日本		シムラー	120	6＊6	東京光学の二眼レフですがこのブランドのは非常に少ないものです。マークはきちんと東京光学のものです。
ロレックス 20	ROLEX 20	USカメラ	アメリカ			620	6＊9	アメリカ製のスプリングカメラです。決して高級品ではありませんが金属ボディの丁寧に作られたものです。ただし、アメリカ製620です。
ワード フレックス	WARD FLEX	太陽堂	日本			120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。輸出用のブランドです。
ワゴ フレックス	WAGO FLEX		日本			120	6＊6	戦後日本の復興期(1945～)に作られ、輸出もされた二眼レフの一台です。町工場で作られたため、実態の良くわからない物もあります。ほとんどのメーカーは二眼レフの時代から35mmに移行する頃(1960年代)に消えてゆきました。このブランドもその一つです。後にワルツフレックスに転進したものとかがわれています。
ワトソン	WELTA WATSON	ウェルタ	ドイツ		カッサー50mm2.9	135	24＊36	ウェルタの35mmスプリングカメラの一つです。シャッターもコンバーが使われレンズの明るく、高級アマチュア向けのものです。
ワランス ヒートン35	WALLANCE HEATON 35	ヒートンHEATON	英国			135	24＊36	英国製の35mmスプリングカメラです。英国王室ご用立てとか言われていますが、日本ではほとんど無いと思われま
ワルタックス	WALTAX	岡田光学	日本		パイオコレックス	120	6＊4.5	いわゆる町工場的なメーカーの製品でセミ判のスプリングカメラです。第一光機からも双子カメラが出ていたようです。
ワルツ 35S	WALZ 35S	ワルツ	日本			135	24＊36	ワルツの35mmカメラで『故障しません』をキャッチフレーズに1957年ごろ売り出した頑丈なカメラです。
ワルツ フレックス	WALZ FLEX	ワルツ	日本			120	6＊6	フィルターをはじめとするカメラ付属品のメーカーワルツが送り出した二眼レフカメラです。製造期間は短いものです。戦後の二眼レフ時代の一台に埋もれてしまっています。